特別号

第17回 楽文（らくぶん）コンテスト

各賞受賞作品発表!!

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、
大好きなお祭や夢中になっている事。
いろんな君の『大好き』を教えてください。
詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。
一行でも、誤字・脱字、
ぜんぶひらがなでもOK。
じょうずじゃなくていい。
そう、「楽文」でいいんです。



◎主催 …… NPO特定非営利活動法人 博多の風

◎特別協賛 …… NTT docomo

◎協力 …… 博多祇園山笠振興会
（株）毎日新聞社、RKB毎日放送（株）

◎選考委員 …… 豊田 侃也氏（博多祇園山笠振興会 会長）
永守 良孝氏（RKB毎日放送 相談役）
沢田 幸二氏（KBC九州朝日放送 パーソナリティ）
大庭 宗一　（NPO博多の風 理事長）

◎協賛 …… 九州電力（株）、西部ガス（株）、JA福岡市、西日本鉄道（株）
日本電気（株）　[順不同]

◎後援 …… 福岡市、福岡市教育委員会
（一社）九州経済連合会、（株）岩田屋三越、九州旅客鉄道（株）
（株）九電工、コカ・コーラウエスト（株）、（株）西日本シティ銀行
NTT西日本福岡支店、（株）福岡銀行　[順不同]

第47号
平成29年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
http://hakatanokaze.jp

平成28年
4月　第36回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師：沢田　幸二氏（KBC九州朝日放送アナウンサー）
6月　第15回　追山コース探訪　開催
　　第16回　楽文コンテスト　開催
11月　第37回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師：大庭　宗一（NPO博多の風理事長）

平成29年
4月　第38回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師：平井　彰（NPO博多の風副理事長・事務局長）
　　（一社　九州経済連合会　常務理事　事務局長）
6月　第16回　追山コース探訪　開催
　　第17回　楽文コンテスト　開催

NPO博多の風の歩み

■設立
平成10年　9月
任意団体『博多の風』設立　代表：大庭宗一

■NPO登記
平成12年　6月
『NPO博多の風』として登記　理事長：大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール（楽文コンテスト）j開催

■地域環境向上事業
・博多の町親交
（清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承）

■活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催

■協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人
博多の風
〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX　092-263-7188
E-Mail　info@hakatanokaze.jp
URL　http://hakatanokaze.jp

題字：新井光守

発表！　第17回楽文コンテスト　入賞者

博多祇園山笠振興会賞

「デザイナーになりたい」	西高宮小学校１年	加茂　彩羽
「いとこ」	高取小学校４年	樺島　怜佑
「テニス」	香椎第三中学校１年	荒木　桃子
「私の大好きなこと」	照葉中学校１年	角田　優佳
「君が大好きなこと」	青葉中学校２年	マクドナルド アレクシス 藍

毎日新聞社賞

「わたしのすきなひと」	壱岐小学校１年	山口　紗奈
「私が夢中になっていること」	野芥小学校５年	岩井　桜子
「英語と歩む」	警固中学校１年	有馬　凛華
「私の音色」	香椎第三中学校１年	鶴田　裕乃
「僕が夢中になっていること」	長丘中学校２年	早川　優太郎

ＮＴＴドコモ賞

「ふしぎないきものたち」	西高宮小学校２年	上田　晃弘
「ナンバーで覚える都道府県」	東箱崎小学校５年	岩橋　幹太
「好きな事を続けるにも努力が必要」	長丘中学校１年	石松　未夢
「世界で戦う」	博多中学校１年	福本　梨乃
「大好きなこと」	吉塚中学校３年	麻生帆乃花

ＲＫＢ毎日放送賞

「私が大好きな事」	高取小学校５年	古賀　結子
「『カンジー博士』と呼ばれた日」	名島小学校５年	田中　暢哲
「私とピアノ」	野間中学校１年	井手　美結
「『カッパ１号』の夢」	松崎中学校２年	岩谷　公誠
「私の好きなこと」	青葉中学校３年	岡野　真奈

九州電力賞

「大すきなどうぶつたち」	野芥小学校２年	羽鳥　友宇
「大好きな読書」	西高宮小学校６年	入江　健太
「空手を続ける覚悟」	博多中学校１年	大坪さくら
「逃げないで。私の好きなこと。」	香椎第三中学校２年	甲斐菜津美
「私が大好きなこと」	野間中学校３年	徳永　菜摘

西部ガス賞

「ぼくの大すきなもの」	名島小学校３年	田川　凌生
「ぼくの大好きなスポーツ」	小田部小学校６年	川田　航平
「私が夢中になっていること」	香椎第三中学校１年	大瀬良　遥
「私の好きな事」	松崎中学校２年	小濱明日香
「博多の誇り」	長丘中学校３年	砥綿　昂敬

ＪＡ福岡市賞

「あ・うん」	鳥飼小学校３年	米倉未帆莉
「私の大好きな書道」	西高宮小学校６年	紺藤　菜加
「私の大好きなもの」	野間中学校１年	渋田　文音
「大好きだから学べたこと」	照葉中学校２年	鶴屋　美咲
「勝利のために」	照葉中学校３年	村上晃史郎

西日本鉄道賞

「わたしが大すきなこと」	箱崎小学校４年	大杉　会季
「私の大好きなおばあちゃん」	和白東小学校６年	塩﨑　琳菜
「僕の好きな事」	青葉中学校１年	龍山　一輝
「栄養士という夢に向かって」	長丘中学校２年	西脇　理紀
「私の好きなこと」	長丘中学校３年	本村英玲奈

ＮＥＣ賞

「絵を書く楽しさ」	箱崎小学校４年	小野　楓花
「永遠の友達」	赤坂小学校６年	原田みつき
「私が大好きなこと」	長丘中学校１年	佐藤　令奈
「僕の厳しいおばあちゃん」	警固中学校１年	近本　悠城
「たくさんの子供と関わってきた今の自分」	長丘中学校２年	安松　香南

ＮＰＯ博多の風賞

「大すきな山かさ『たのしいぞ』」	百道浜小学校２年	生方　純
「十分の風」	博多小学校５年	藤田　悠真
「本と新たな発見、考え方」	平尾中学校２年	坂　多南実
「私の大好きなもの」	長丘中学校２年	小島　凛香
「始まりは天の川」	長丘中学校２年	佐々木理帆

博多祇園山笠振興会賞

デザイナーになりたい

●西高宮小学校１年

加茂（カモ）　彩羽（イロハ）

わたしは、ドレスをデザインすることがだいすきです。いつもがっこうのやすみじかんに、いろえんぴつをつかってカラフルなドレスをデザインしています。ドレスをデザインするときのじゅんばんは、まずドレスのかたちをきめます。そでがノースリーブのものやふんわりしたパフスリーブ、スカートのながさやかたちもいろいろとくふうします。つぎに、いろをきめてぬり、ほしやハート、リボンなどかわいいかざりをたくさんかきたします。そして、ティアラやゆびわ、ブレスレットやネックレスなどドレスにあうアクセサリーを考えます。これでコーディネートのかんせいです。つぎつぎにアイディアがうかぶので、わたしのじゆうちょうは、ドレスのデザインでいっぱいです。

どういうところがすきなのかというと、じぶんがきてみたいなとおもったドレスをデ

ザインして、おともだちにみせます。すると、「あなたにとってもにあいそう。」といわれると、すごくうれしくなるからです。

しょうらいデザイナーになって、モデルさんやアイドルにきてもらえるような、すてきなドレスをたくさんデザインしたいです。

いとこ

●高取小学校４年

樺島（カバシマ）　怜佑（リョウスケ）

「おったー。」

と、ホームを見ながら手をふった。しんかん線が、新山口駅に着いたら、いとこのひさちゃんがむかえに来てくれていた。ぼくは初めて一人で新かん線に乗って旅をすることになった。前から山口に遊びにおいでよと言われていたけれど、なかなか勇気が出なくて決心がつかなかった。だけど今回はいとこに電話でさそわれ、その日のうちに山口に行くことができた。自分でもびっくりだったけど、大好きないとこに会えると思うと、がんばろうという気持ちがわいてきたのだ。

「りょうちゃん、えらかったね。」

「おーりょうちゃん、いらっしゃい。」

「新かん線が着くのが意外に早かったです。」

と三人で、ホームを歩きながら話した。

ひさちゃんがぼくの荷物を持ってくれた。一つ年上でやさしくて、たよりになる。ぼくは、新かん線のきんちょうが、すっかりなくなった。いつもはおばあちゃんの家で出会うひさちゃんと、今日から思いっきり遊べる山口での四日間に、とてもわくわくした。

ぼくにはいとこが七人いる。でも男は、ぼくとひさちゃんの二人だけ。だからぼくたちは、とても気が合う。好きなことや遊びたいことが、いつもバッチリいっしょだ。だから山口ではゲームをしたり、映画に行ったり、レゴをしたりした。

ざんねんだったのが、海に行く予定だったけど台風のえいきょうで、行けなかったことだ。かわりに室内プールに行くことになった。ひさちゃんとぼくは水泳を習っている。特にひさちゃんは選手コースにいて、水泳がとても上手だ。だから、ぼくは、せ泳ぎを教えてもらうことにした。

「もっとしせいをよくして。」

「あっ。ぼくしせいが悪かったんだ。」

「キックをもっと強くするといいよ。」

と二人で泳ぎながら話した。ぼくは、せ泳ぎが上手くなった気がした。

夜になると、今度はぼくがしょうにんになった。ぼくは空手を習っている。だから、ふとんの上で空手のストレッチをわざをすることになった。

「はいっ。もも上げ三回！」

「あーきつい！」

と、あせをかきながら二人で話した。

「りょうちゃん、体かんがあるね。」

とひさちゃんがぼくを見てほめてくれた。空手を小さいころから習っていたけど、今日みたいにほめられて、ずっとつづけていてよかったなと思った。夏休みの一人旅で、ぼくは二つも大好きなことがあるのに気がついた。いとこと空手。これからもずっと好きでいようと思った。

エイッと空手のわざを決めた。ぼくたちの顔にあせが光った。

「はいはいっ。つづけて！」

「もっとしせいをよくして！」

テニス

●香椎第三中学校１年

荒木（アラキ）　桃子（モモコ）

私の、今夢中になっていることは、テニスです。私には、２年後叶えたい夢があります。中体連で必ず県大会に行く、という夢です。

私がこの目標を立てたのは今の三年生のえいきょうです。今の三年生は、私が心から尊敬している人です。テニスがただ上手なだけではなく、みんなが目標にできるような三年生です。そんなあこがれのセンパイに少しでも近づけるように。

私がテニスを始めたのは、六年生の始めです。最初の方はルールを全然知らなかったし、ボールもまったく打てませんでした。試合に出ても負けてばかりでした。それどころか、負けてもヘラヘラしていました。その時お母さんが私に

「負けてもいいよ。一生懸命したんなら。でも、負けてヘラヘラするくらいならせんどけば」

と言われ私は次の試合は全力で勝ちに行こうと思いました。お母さんにほめてもらうために。そして、３月にあった試合で最初にあたったのが、１度も勝った事のない人でした。最初はとてもきんちょうしました。でも、必ず勝つと心の中に決めていました。最初はダブルフォルトばかり。ペアの人にも、もうしわけなくてあせっていました。でも、１度決めた目標をあきらめたくない、の一心でボールを追い続けました。そしたら、ポイントが入っていき勝てました。そして、初めてテニスが楽しいと思いました。このできごとが私がテニス部に入ろうと思うきっかけとなりました。そして今。暑い中毎日部活がありますが。でも、私は部活が最高に楽しいです。きつい時もあるし楽しい時もあります。でも、がんばった分だけ必ず結果がついてくる。この言葉を私はいろんな人に言われました。今の私は、口だけです。なりたいとか、かちたい、だから人より３倍、４倍努力して口だけにならないようにします。私が初めてテニスの楽しさを知った時のように、いつも全力でボールを追いかけてあこがれになれるようにがんばります。そして今、私が目標にしているセンパイに一歩でも近づけるように練習しています。私が初めて見た感動の夏。

このプレーを2年後にしたい。この感動を私は忘れません。そして、今の三年生とラリーをして、ついていけるくらい練習して県大会に出場したいです。来年、再来年、私がセンパイになった時私の試合を見ている人に、たくさんの笑顔と感動をあたえられるプレーがいつかできるように三年生に近づくために。

私の大好きなこと

●照葉中学校1年

角田（カクタ）　優佳（ユウカ）

中学校に入って、私は卓球部に入りました。私は卓球初心者で、本当に何の縁もなく、ただ楽しそう、という理由で入った卓球部。でも今は、卓球が大好きです。

4月。入部したばかりのころ、一年生はなかなか台に入れることはなく、外周、筋トレ、すぶりの毎日でした。特に私が大変だったのは、朝練です。7時30分から始まる朝練は、朝早く起きなければいけません。私は、早起きが苦手なので、いつもギリギリになってしまいました。朝練と言っても、30分間ずっとすぶりです。もう本当にくたくたで、何で卓球部に入ったんだろう、と思ったことも何回かありました。

でも、そんな気持ちが入れ替わったのが、6月の部内戦のときでした。一年生十一人で、一セットマッチの試合をしました。まだみんなラケットを買っていなかったので、学校のラケットで試合をしました。スマッシュを決めようとするが、入らず。ツッツキをするがネットにひっかかり。だからと言って安全に高いボールを打ったら相手にスマッシュを打たれてしまい。そんなミスが続き、私は6位という結果で終わりました。私はとても悔しかったです。そのとき私の気持ちは切り替わりました。もっと強くなりたいと。

そう思って、夏休みの練習は、一生懸命練習しました。もう本当に暑い中、走って、筋トレして。でも、そんな中でうれしかった事もあります。それは、毎日の練習メニューの中に、多球練習と基礎打ちが入っているということです。つまり、毎日台に入って卓球の練習ができるということです。私はそれが本当にうれしくて、そのために外周も、筋トレも、さぼらず毎日がんばりました。

そしていよいよ、夏休みも終わりに近づき、総当たり戦をするときがやってきました。この総当たり戦では、私たち一年生も、二年生の先輩とも戦います。もうあんな悔しい思いはしたくない。そう思って一生懸命がんばりました。4日にわたって試合をし、結果は、7勝9敗。そのうち6人は先輩に全敗し、一年生には3人に負けました。今回は、ドライブやスマッシュがけっこう決まり、ツッツキもうまくいきました。次の試合では、先輩にも勝てるぐらい、強くなりたいです。

4月から卓球を始めて、辛いと思って挫けそうになったり、卓球がいやになったときもありました。でも、これからは卓球をもっともっと強くなりたいです。

君が大好きなこと

●青葉中学校2年

マクドナルド　アレクシス　藍（アイ）

私が大好きなこと、それは映画製作だ。そして、将来の夢は映画監督になることだ。映画監督になって、有名になり、いろんな所を旅したいと思った。

そう思ったのは、私が4年生のときだ。父の友人が「ＩＭｏｖｉｅ」（アイムービー）という動画作りのアプリを紹介してくれた時、私は一目惚れをした。撮影するのが楽しく、それを自分で好きなように編集をするのがおもしろくてたまらなかった。毎日、毎日夢中になって、ＭＶ（ミュージックビデオ）まで撮るようになり、エスカレートしていった。

ある日、母からインターネットで見つけた「日本子供映画コンクール」というショートフィルムコンテストに「応募したら」と言われたので、夏休み中に脚本や絵コンテを作り、10月から11月にかけて、撮影と編集を仕上げた。そして、コンクールに応募した。緊張と不安のあまり、参加賞さえももらえないだろうと思っていた。

そして、その日はやって来た。母の携帯に電話がかかってきた。「マクドナルドさん。おめでとうございます。あなたは、１１７作品の中からグランプリ賞に選ばれました。」と。おどろきのあまりに母までが何十回も飛びはねた。それから、東京で授賞式に出席し、別所哲也さんやLiLiCo さんとも会い、テレビや新聞にものった。一番に感じたことは、自分の好きなこと、やりたいことがみんなに知られてうれしかったということ。もっとこれからも、自分の好きなことで人生を歩みたいし、夢を実現させていきたいと思った。自分の大好きなことを大事にするっていうことは本当に大切だと思った。

私は今、次回作を作っている。でも、今回はたくさんの方々に協力をしてもらい、もっと大きいコンクールに出し、またグランプリ賞をもらいたいと思う。そして、いつかあの夢みたハリウッドのレッドカーペットを歩き、ハリウッドの「ウォーク・オブ・フェイム」で自分の名前が刻まれるほど、有名で魅力的な映画監督と女優になる。

毎日新聞社賞

わたしのすきなひと

●壱岐小学校1年

山口（ヤマグチ）　紗奈（サナ）

わたしのためならなんでもがんばってくれるひと。
べんきょうをおしえてくれます。
ならいごとについていってくれます。
おふろにいれてくれます。
ごはんをつくってくれます。
いろいろなばしょにつれていってくれます。
いろんなことをおしえてくれます。
まもってくれます。
おこってくれます。
やさしいひと。
いちばんこわいひと。
わたしたちをうんでくれたおかあさん、
だいすきです。

私が夢中になっていること

●野芥小学校5年

岩井（イワイ）　桜子（サクラコ）

私の夢中になっていることは、本を読むことです。今は学校でも、図書委員になり、本にふれる時間が、学校にも家にもたくさんあり、とてもうれしいです。本のみりょくは、1ページ、2ページと本を読んでいくと、その物語の世界に入りこみ、時を忘れて読み続けてしまう。そして、自分が主人公の気もちになり、感情が同じになる、そんなところです。

最近はまっているのは、文庫本です。文庫本は単行本よりも安く手に入り、よく売れた人気の本を選ぶことができます。私が文庫本と出会ったのは、少し変わった理由があります。ある日、お店でとってもかわいいブックカバーを見つけ、ほしかったのでサイズもはからずに、かってしまいました。さっそく自分の持っていた本をつけようとすると、入りません。お母さんと商品を見ると、小さな字で「文庫本用」とかいてあります。私は、それを知らずにかってしまったのです。「ブックカバーをつけて本を読むこと」が、大人みたいですてきだなと思っていたので、ショックでした。でもあきらめきれず、次の火曜日に、お父さんと本屋さんに向かい、そこで文庫本をさがしたのです。そして、あこがれていた「ブックカバーをつけての読書」の夢をかなえることができました。

今年に入り、4冊の文庫本と出会いました。1冊目は「君の膵臓を食べたい」2冊目は「ちょっと今から仕事やめてくる」3冊目は「西の魔女が死んだ」4冊目は「打ち上げ花火下から見るか横から見るか」の4冊です。みなさんはお気づきでしょうか。そう、そうです。その私の読んだ4冊すべて、映画化されている、又は映画化される予定のものだったのです。

このことから私は、本を読んでから映画を見るという、楽しみ方とも出会えました。そしてますます、本が好きになりました。自分で、主人公はどんな人がやるのだろうと予想しながら読むのも、なかなか楽しくなります。「君の膵臓を食べたい」を見に行った時は、分かっていたラストでしたが、やっぱり泣いてしまいました。私の読んだ文庫本が、たまたま映画化されたかもしれませんが、これらの本選びや、読書は映画化されるかなと、想像しながら読む楽しみができました。まだまだ、手にしていない本がたくさんあります。これからは、前よりももっともっと、たくさんの本を手にして、たくさんの物語に出会って、本からいろんなことを、学び、たくさんのことを知ってきたいです。

英語と歩む

●警固中学校1年

有馬（アリマ）　凛華（リンカ）

「凛華ちゃん、すごいね。」
友達からこの言葉をいわれてとても嬉しかった。私は、英語の期末テストで念願の100点を取ることができた。女子の出席番号の逆から返していくなかで46、45、44…とカウントが進むなか私は必死で願った。私のクラスにある坂本りょう馬像にももちろんお願いした。この像は、テストの点数を上げてくれるそうです。（お願いしたことは内緒にしていてください。）そして、私の出席番号になった。ドキドキしながら教たくに向かうと、英語の先生が、「よくがんばりましたね。」と笑顔で言ってくれた。テストを見ると、はじのほうに「100」と大きく書かれていた。飛び上がるほどとてもうれしかった。この出来事をきっかけにますます英語が得意になったような気がした。

私が英語に興味を持つようになったのは、小学校六年生の時の中学校の出前授業の時だった。その時に担当だった英語の先生は、とても発音がよく、しかも速く正確に話していてとても驚いた。おそらくそこにいた友達たちもたぶんびっくりしていたと思う。その時の英語の先生は明るく楽しく授業をしてくれた。中学校の英語は、こんなにハードで大変なんだな。ついていけるかな…と思ったが、私自身が英語を好きといえた最初の日でもあった。

しばらくして私は英語を本格的に学びたいと思い英語塾に通い始めました。始めは、慣れないことが多くて思うようについていけなかったりして不安が大きかったです。英語の本の音読の時、声が小さくなったりと自信を持てなかったです。そんな中、コーチが「もっと自信を持って読んでいいんだよ。」と言われ自信を持って取り組むように心がけました。それを機に

私の音色

●香椎第三中学校1年

鶴田（ツルタ）　裕乃（ヒロノ）

「上手だね。」その言葉を聞くたび嬉しくて頑張れる。五年生の私がピアノにそっと手を置き、深呼吸する。そして、私のピアノの音色にみんなの声が重なり、素敵な曲を奏でるこのピアノ伴奏をしたことが、私の人生を大きく変えた。

五年生の三学期、六年生の卒業式に在校生の送る曲のピアノ伴奏者を呼びかけていた。しかし私は人前に出るのがはずかしく、立候補しなかった。そして、こういう伴奏は毎回同じ人が立候補して弾いていた。今回もいつものように同じ人が立候補していた。そんな時、先生が私の元にやってきて、あなたなら出来るから挑戦してみなさい、とそっと楽譜を渡された。先生の言葉に驚き、その嬉しさで立候補することにした。先生の言葉が励みになり、毎日毎日何時間も練習した。こんなに一つの事に熱中して取り組んだのは初めてだった。そして、私が絶対弾いてやるという思いで暇があればピアノに向かい、指や手首や腕が痛くなってもこの思いは止まらなかった。

オーディションの日がやってきた。胸の高鳴りが止まらない。最初に毎回ピアノ伴奏をする人が弾いた。やはりものすごく上手で誰が弾いてもを感じた。その反面、絶対負けたくない、今までの思いをこの音色に乗せようと思った。私の弾く番がきた。緊張のあまり楽譜はほとんど見えなかった。けれども緊張をほぐすために体を揺らし、楽しんで弾こうと一生懸命に奏でた。演奏が終わると、「すごい。」と言う声と、たくさんの拍手が聞こえてきた。とても上手な人からも、「絶対伴奏者で決まりだよ。」と言われた。お世辞かもしれないと自分を否定したが、審査の先生が「あなたにお願いします。」と私を指名した。嬉しさのあまり言葉が出なかった。卒業式までの間、練習でみんなの歌と何度も合わせた。みんなからとても上手だね、とか歌いやすいよ、とかいわれるとやりがいを感じて、どんどん上達した。卒業式の大舞台、とても緊張した。でも私の事を認め支えてくれたみんなと奏でる音色は最高だった。

あの先生の一言から、私は人前に出ることが平気になった。それから六年生になり、音楽発表会や自分たちの卒業式のピアノ伴奏を務めた。そして今、中学一年生になり、合唱コンクールで伴奏できるようになった。またあの時のように一生懸命練習している。みんなが期待してくれているから頑張れる。クラスのみんなが歌いやすく、聞いている人に感動して貰えるように。そして何よりみんなの笑顔が見たいから。

もし、あの先生の一言がなかったら。もしみんなが認めて支えてくれなかったら。そんな先生とみんなに感謝している。そのおかげで、私はピアノを弾いている時間が大好きだ。今日も私の音色は響いている。

僕が夢中になっていること

●長丘中学校2年

早川（ハヤカワ）　優太郎（ユウタロウ）

「早川君、明日七時からでもいいですか？」

僕が今夢中になっていること。それは釣りです。小学校の頃から魚の種類や生態について興味があり、その自分と住む世界が全く異なる魚を自分で釣れることに面白さを感じています。今では友人と朝はやくから釣りに行くほど釣りのとりこになっています。

僕が釣りで一番楽しいと思う時は、漁港に着き、道具を準備し、竿を振るその一投目です。一番釣りが始まったと実感できる瞬間です。と同時に、今日はどのくらい大きい、どんな種類の魚が釣れるのかといったワクワクが生まれる瞬間でもあります。そのワクワクこそが、僕が釣りに夢中になっている理由なのです。

また、釣りはゲームなどの機械系の遊びとは違い、生き物が相手です。釣りが始まってから終わるまで、どうなるのか全くわかりません。目的の魚を釣るために仕掛けを替えるといった作戦はあっても、狙った魚を必ず釣り上げる方法はないのです。魚によっては、一度仕掛けだと分かったら食いつかない、賢いものもいます。そんな知能をもった水中の生き物とのかけ引きは、予測のつかない展開の繰り返しで、僕の心をつかんで離さないのです。

しかし、釣りには危険な面も存在します。釣りで使う道具は針などの危険なものが多いのです。魚にも毒やするどいトゲを持つものがいます。

もっとうまくなりたいと思い、コーチにうまくなる方法を聞きました。するとコーチは「誰かのいいところを取り入れて、まねするといいよ。」と教えてくれました。そこで私はあるコーチのいいところを取り入れてまねをしていくと、全体的に自信がついてきて発音も少しよくなったなと感じた。音読が終わった後、コーチから「声が大きくて聞き取りやすかったよ。」「発音がすごくよかったよ。」とたくさんほめられて、より自信を持って取り組むことができるようになりました。

このように、小さな努力が、実を結び、大きな成果として出せるということを書いていくなかで学びました。英語は世界の一つ一つをつなぐ無限のパスポートだと思います。この大切な言語とともにこれから向き合っていき英語と未来に向かって歩んでいきたいです。

何より、海や川で釣りをするとき、水難事故に遭う可能性が少なくはありません。大切な命を失ってしまう可能性もあるのです。そういった危険から身を守るために、楽しさばかり優先せず、天候や場所を考慮し、マナーを守る、道具を扱う時は細心の注意を払うなど、自分で自分の身を守るためには何が必要なのかを常に頭に入れておくことの大切さも学びました。

そして、漁港などの釣り場は自分だけのものではないので、家族で釣りに来た人などに釣り場をゆずるといった心配りを僕はとても大切にしています。

休日、祝日などに友人と釣りをしている時は、毎日の疲れや嫌な事を忘れて釣りに没頭できます。そんなときは本当に時間が経つのが早いです。この貴重な時間こそが、僕の人生を彩ってくれるのです。

NTTドコモ賞

ふしぎないきものたち

●西高宮小学校2年

上田（ウエダ）　晃弘（アキヒロ）

コンドロクラディア・リラ、ネオケラティアス、イエティクラブ、スティギオメデューサ、カイロウドウケツ、ギガントキプリス。

へんな名前がいっぱい。なんだろう。

こたえは、ぜんぶしん海のいきものたち。

へんな形もいっぱい。みたこともない、いきものばっかり。

今年のおきにいりは、しん海のいきものたち。おばあちゃんがかってくれた本を、ぼくは大よろこびでなんでもよんだよ。

ぼくがすきなのは、体が長くてちょんまげみたいなとさかのついた、リュウグウノツカイ。ふだんは、たちおよぎするんだって。見つけた人は、りゅうぐうじょうへつれて行ってもらえるのかな？でも、きゅうにおじいさんになったら、こまっちゃうな。

つぎにすきなのは、サメの中でも一ばん大きな口をもつ、メガマウス。大きな口なのに、小さな小さなプランクトンをたべる。数ミリメートルの小さなはが、びっしりならんでいるんだって。おなかすいちゃいそう。

それから、シーラカンスもすごいんだ。シーラカンスは、六千五百万年前から海にいたそうだ。ひれを左右こうごにうごかして、歩くようによく。

ほかにも、百五十年生きるという魚や、四百年も生きるという貝がいる。水おんがひくいしん海のいきものは、ゆっくりせい長し、じゅみょうが、長くなると考えられている。ぼくが、もしもしん海で生きられたら、なんさいまで生きられるのかな。たまてばこがなくても、おじいさんになっちゃうね。だって、まわりにいるのは、みんなものすごいおじいちゃんやおばあちゃんばっかりだもんね。

ぼくがへんな魚と思ったのは、デメニギス。すけすけの頭をもっている。えものを見つけるために、目を上にむけたり前にむけたりする。もしも、ぼくの頭がデメニギスみたいにすけすけになったら、どうしよう。今考えていることが、すぐばれちゃうね。

体中がすけすけのいきものや、かわいいいきものもいるよ。もっともっとしん海のいきものをしらべたいな。

ナンバーで覚える都道府県

●東箱崎小学校5年

岩橋（イワハシ）　幹太（カンタ）

ぼくが、最近夢中になっていることは、車のナンバーで、47都道府県を見つけることです。また、ナンバーには、県以外に、市のナンバーもあるので、すべて見つけることを目標にしています。

外出した時、バスに乗っている時に、駐車場に止まっている車や、通りすぎる車を見るようにしています。そして、県名やたくさんの市の名前を覚えたいと思っています。

自分が住んでいる、福岡県内や九州のナンバーは、毎日のように見かけますが、まだ、見ることが出来ていない県や市のナンバーがあります。

ぼくが、今まで見た中で一番北は、北海道の「札幌」、「帯広」のナンバーです。福岡で、北海道のナンバーが見れるとは思っていなかったので、とてもびっくりしました。

そして、毎日のようにナンバーを見ていると、めずらしい市のナンバーも見かけます。例えば、愛知県の「尾張小牧」や千葉県の「袖ヶ浦」です。

また、ぼくがかっこいいなと思った地名は、神奈川県の「湘南」と岡山県の「倉敷」です。漢字のならびが、かっこいいなと思いました。また、おもしろいなと思ったことは、「いわき」、「つくば」、「なにわ」など、ひらがなの市があることです。

僕がいつも思うことは、福岡市内には、たくさんの県外の人たちが、仕事や観光で来たり、また住んでいるんだなということです。そう思うと、とてもうれしく思います。

まだ、見れてない県のナンバーもあります。西日本のナンバーは、ほとんど見ることが出来たけど、福井県や山形県、栃木県、青森県、岩手県が見れていません。ぼくは、すべてのナンバーを見つけるまで、続けていきたいと思っています。見つけるたびに楽しくて、次を探したくなります。そして、もっといろんな市を覚えていきたいと思います。

好きな事を続けるにも努力が必要

●長丘中学校1年

石松（イシマツ）　未夢（ミユ）

私の好きな事。それはテニスだ。

中学校に入学してテニス部に入部するまで私は、テニスの事を全く知らなかった。友達にさそわれてテニス部に入部体験に行った。最初は「テニスって楽しいの？」と疑問に思っていた。しかしやってみると教えてもらった事が少しずつ出来るようになって楽しかった。でも初めてだったので出来ない事のほうが多かった。すると「最初だから出来なくて当たり前だよ。出来るようになりたかったらテニス部に入ったらできるようになれるよ。」と先輩が優しく声をかけてくれた。私はこの時、テニス部に入ろうと決めた

実際、テニス部に入ると楽しい事ばかりでは無かった。まずは上下関係。学校で先輩にあった時は必ずあいさつをしなければならない。これは当たり前だ。しかし周りに目を向けて行動するのは難しかった。そして、ボール拾い。私は入部したら打たせてもらえると思っていた。でもその考えは間違いだった。一年生はずっとボール拾いでとてもきつかった。早く打たせてもらえないのかなとずっと思っていた。すると先輩が「ボール拾いをきちんとすれば絶対に打たせてもらえるから頑張って。」と声をかけてくれた。その通り私はボール拾いを頑張った。今は打たせてもらえている。私はボール拾いを頑張って良かったと思った。

でも嫌な事ばかりではなかった。今は秋の新人戦に向けて一生懸命練習している。毎日できる事が増えていくのでとてもやりがいがある。また、スマッシュやサーブがきまるととても嬉しく、自信がつく。

これだけ夢中になれるのもやっぱり好きだからと思う。好きではなかったらこんなにもきつい練習もできなかったと思う。私は、好きなことを見つけその事を頑張ることはとても大事だと思う。私はこの事がテニス部に入ってよく分かった。苦手なことを頑張れば自信がつくが好きなことを頑張ると楽しく長く続けられる。まだテニスを始めて少ししかたっていなく、これから嫌な事もたくさん出てくるなるにつれ勉強が少しずつ忙しくなるとともに絵を描く時間も減っていった。そのうえ、友達と遊ぶ時間も長くなり屋外で過ごすことも増えた。そこで出会ったのが、少女漫画雑誌である。今まではたまに買う程度だったが、ふと思い立って買ったときの収録されている漫画をみて衝撃を受けた。そのことがきっかけでより漫画家になりたいという思いが強まった。そしてそこから私は本格的に技術向上に努めていったのである。

大好きなことは、それに一生を費やすことができると思えることだと思う。なので大人たちは、自分が好きなことを仕事にできるようにがんばれと言うのであろう。私はその言葉を聞き、すぐさま漫画家という単語が頭にうかんだが、好きなことが無い人にとってその言葉はどう感じたのだろうといつも思う。そう考えるうち、自分にとって大好きなことがあるということに感謝するべきではないかと思う。今の自分に足りないのは、勇気だ。せっかく自分が大好きだとおもえることに出会っているのに、勇気を出さなければ意味がない。私の場合、少女漫画に絵や漫画を投稿する勇気がないということである。自分に少しでも自信があるならば、挑戦するべきだった。投稿して自分の実力をみてみたいと思っていたが、私にはその勇気が無かったのだ。なので私は今、後悔している。私は受験生だ。もう絵を描く機会はほとんどない。大好きなことがしたくてもできない状況におちいってはじめて過去の自分の弱さを知った。これからも、絵を描く時間がなくなるかもしれない。しかし、漫画家になりたいと強くおもう気持ちはかわりがない。私はこれからも、大好きなことを決してあきらめない。そして夢を叶える。

世界で戦う

●博多中学校1年

福本（フクモト）　梨乃（リノ）

ラグビーとはだえん形のボールをもって、トライラインを目指して走り、得点を争う競技です。相手がボールをもったときはタックルで相手選手をとめ、得点がはいらないようにします。タックルとは、ボールを持っている相手の体にとびついて、パスができないようにしたり、倒したりすることです。また、タックルされても倒れないようにすることです。苦手なことを頑張ると楽しく長く続けられるようにがんばります。また、みんなともっと協力しあいながらプレーができるようになるにつれ勉強が少しずつ忙しくなるとともに絵を描く時間も減っていった。そのうえ、友達と遊ぶ時間も長くなり屋外で過ごすことも増えた。そこで出会ったのが、少女漫画雑誌である。今まではたまに買う程度だったが、ふと思い立って買ったときの収録されている漫画をみて衝撃を受けた。そのことがきっかけでより漫画家になりたいという思いが強まった。そしてそこから私は本格的に技術向上に努めていったのである。

大好きなことは、それに一生を費やすことができると思えることだと思う。なので大人たちは、自分が好きなことを仕事にできるようにがんばれと言うのであろう。私はその言葉を聞き、すぐさま漫画家という単語が頭にうかんだが、好きなことが無い人にとってその言葉はどう感じたのだろうといつも思う。そう考えるうち、自分にとって大好きなことがあるということに感謝するべきではないかと思う。今の自分に足りないのは、勇気だ。せっかく自分が大好きだとおもえることに出会っているのに、勇気を出さなければ意味がない。私の場合、少女漫画に絵や漫画を投稿する勇気がないということである。自分に少しでも自信があるならば、挑戦するべきだった。投稿して自分の実力をみてみたいと思っていたが、私にはその勇気が無かったのだ。なので私は今、後悔している。私は受験生だ。もう絵を描く機会はほとんどない。大好きなことがしたくてもできない状況におちいってはじめて過去の自分の弱さを知った。これからも、絵を描く時間がなくなるかもしれない。しかし、漫画家になりたいと強くおもう気持ちはかわりがない。私はこれからも、大好きなことを決してあきらめない。そして夢を叶える。

大好きなこと

●吉塚中学校3年

麻生（アソウ）　帆乃花（ホノカ）

私にとって絵を描くことは、大好きなことであり、いやしでもある。私は幼い頃から絵を描くことが大好きだった。将来の夢は、小学一年生の時から変わったことは一度もない。私は、漫画家になりたいと目標を決めてからより一層絵に対する関心や、絵を描くことへの愛情が強くなっていった。

私は、悲しいことや悔しいことがあった時無意識にペンをにぎり、絵を描いていた。絵を描いていると幸せな気分になれる。その時間が何よりも大好きなのである。

私は小学三年生の頃まで絵を描くことに没頭していた。ひまさえあれば絵を描いていた。しかし、小学校高学年には、小学二年生の終わりに友達にさそわれて体験にいったときです。初めて見たとき「けがをしそう。こわいな。」と思いました。でもやってみると、タックルで相手選手をとめ、得点をおさえれることが楽しく、またみんなで協力しあいながら得点を取ることができることがうれしく、好きになりました。習ってみて、パスが上手にできなくて変な場所に飛んでいったりして大変でした。習っているうちに、男子に負けたくないという気持ちがでてきて毎日筋トレをするようになりました。そして、倒されないように体幹もきたえるようにしました。今では勝てるようにもなったのでこれからも勝てるように続けていきたいです。

私にとってのラグビーとは、三年生のころからの将来の夢です。みんなで協力しあいながら得点がとれたときの「達成感」がえられる楽しみでもあります。だから「誰にも負けたくない。」という気持ちがあります。

今後、誰にも負けないように、パスをもっと練習して、はやい、正確なパスがなげられるようにがんばります。また、みんなともっと協力しあいながらプレーができるように、一人一人が意識をたかめて、私自身も体力をたくさんつけて試合中に全ての力を出してがんばって、世界で表彰されるぐらいの強いラグビー選手になります。

私が大好きな事

●高取小学校5年

古賀（コガ）　結子（ユイコ）

私が大好きな事は、小説を書くことです。なぜなら、小説では、自分で考え、想像した物語を自由に書けるからです。自由にといっても、原稿用紙に書くときは、使い方を守って書かなければいけません。そのルールの中で、自由に内容を書くことが私の楽しみです。

小説を書くようになったのは、2年生のころでした。学校の作品応募で、作文を出そうと思ったのがきっかけでした。書き始めると、どんどん自分が伝えたい事が書けました。そして、その作品で賞がとれたときに、私は文を書くのは、とっても楽しい事なんだ、と思いました。それから、物語を書いたら、どんなに楽しいのかと思い小説を書き始めました。

最初は、書いてもどうせ他の人には、おもしろくない、つまらないとか、幼すぎるとか、言われるだろうなと思いました。でも、私は、他の人が何を言ってもいいから、とにかく自分の好きなように、思ったように書こうといつも思っていました。

ある日、兄に私が書いた話を見せると兄は、

「友達が書いた方のが、面白いし、何度も読みたくなる。」

と言いました。そのときの私は、人が何度も読みたくなる、面白い話を作ろうと思いました。

そのあと、母に作文帳を買ってもらい、友情をテーマにした話を書きました。そして、兄や友達に読んでもらうと、

「すっごい面白い。続きを読ませて。」

と言ってくれて、私はとても嬉しかったです。自分が思っていたような小説を書けたという満足感を感じました。でも、何度も読みたいと言ってくれる人は、だれもいませんでした。

そこで、私はその話を一年後もう一度、書き直そうと決めました。その一年間で私は、様々な小説を読むことで二度、三度と読みたくなる秘けつを自分なりに、自分で考えた方法で、たくさん研究してみることにしました。

それから7か月が過ぎました。まだ、一年は経っていませんが、何度も読みたくなるようにする方法は、いくつか見つけることができました。あと5か月。さらなる秘けつを研究し自分が満足いく小説をあの日から一年後しっかり書きあげてみせます。

「カンジー博士」と呼ばれた日

●名島小学校5年

田中（タナカ）　暢哲（ノブアキ）

ぼくは、とにかく漢字が大好きで大の得意だ。だから「好きこそものの上手なれ」と、言うように、好きなこと（漢字）なので小さい頃からいつも漢字の本をながめていた。

そして、「あの日」がきた。

三年生のある日、クラスの友達が本を読んでいた時、ぼくに

「この字なんて読むの。」

と聞いてきた。その字は「酸素」だった。

「さんそだよ。」

と答えた。すると友達が、

「何で読めるん。」

と言ったので、ぼくは

「知ってたから。ただ単に。」

と言った。それ以来クラスの子が漢字の読み方を聞いてき

た。そして、答えているうちにぼくは「カンジー博士」と呼ばれるようになった。
でも、そんなぼくでも間ちがえる時がある。ある日、ぼくが黒板に書いた「昨来週」という字を間ちがえていることに友達が気付き、
「のぶ、ちがうじゃん。」
と言われ、ショックだった。
でも、そういうことがあったからこそ勉強になった。
そもそも、ぼくが何故、漢字が大好きになったかというとお姉ちゃんが小学校に入学して漢字を勉強しているのを見て、「ぼくもやりたい。」と関心を持ったのが始まりだ。
最初は文字の特ちょうなどで読み書きしていた。小学校に入学すると、本格的な漢字の勉強が始まったのでうれしかった。
たん生日には、白川静博士の「漢字の世界へ」という本を買ってもらいあきずに見ていた。
ぼくは、「カンジー博士」というユニークなあだ名が気にいっている。クラスのレクレーションなどで漢字クイズを出して、みんなの悩んだ顔をみるとやりがいを感じる。
二・三年生の頃は、本物のカンジー博士になりたいと思ったこともある。
これからも、知らない漢字をいっぱい覚えていきたい。まだまだぼくが知らない漢字がたくさんあるはずだ。
漢字って難しいけど面白い。

私とピアノ

●野間中学校1年

井手（イデ） 美結（ミユウ）

私はピアノを弾くことが大好きです。六歳の時、初めての習い事で選んだのがピアノでした。母の勧めと、保育園の先生の伴奏に憧れたのがきっかけです。ピアノは私に自信を持たせてくれる存在で、ピアノを弾くと心が元気になります。見た目以上に体力も必要なのでスポーツに似た部分もあり、弾いた後はすっきりします。でも、そう思うようになるまでにはとても辛い思いもしました。
若久小学校の学習発表会では児童がピアノの伴奏をします。私は三年生の時、初めてその伴奏者を決めるオーディションに参加しました。いち早く楽譜をもらい、ピアノの先生の特別レッスンを受け、自宅では毎日練習しました。
私のレベルでは譜読みの段階からとても苦労する難しい曲でした。オーディション当日も早起きをして、ヘッドフォンをつけて練習をしました。
準備万端で挑んだオーディション、結果は、落選でした。
私は全力を出し、最善をつくしましたが出ました。悔しくて涙が出ました。そして、自分より優れた奏者がいること、選ばれた子も努力をしていることを知りました。それからは「中途半端で満足するのはやめよう」と決心しました。
ピアノは私に喜びも教えてくれました。私の演奏を楽しみながら、ピアノと共に成長していけたらいいなと思います。
代表でピアノを弾くことがゴールでないことも分かっています。私は選ばれなかった人の分の責任も負っています。私はピアノから多くのことを学ぶことができました。
そして、これからもピアノを楽しみながら、ピアノと共に成長していけたらいいなと思います。

「カッパ1号」の夢

●松崎中学校2年

岩谷（イワタニ） 公誠（コウセイ）

僕は小さい時よく熱を出していた。幼稚園の頃に二回入院した事もある。だから母親に言われて身体を強くするために小学一年生からスイミングを習い始めた。元々プールで遊ぶのが好きだったので、楽しみながら通った。水の中にいるとうれしくなる、生き生きとした姿を見て親たちは僕の事を「カッパ1号」と呼んだ。（ちなみに2号は弟だ）
色々な種目を泳げるようになったり、タイムが速くなるのがうれしくて、たくさん練習をした。するとあんなに頻繁に出していた熱も出なくなっていた。
中学に入ると、身長が急に伸びた。水泳部に入り、スイミングと部活で毎日泳ぐようになった。
すると、僕の身体に異変が起きた、始めは肩。次にひざの筋、肉離れと次々に故障していく。身体が急激に伸びたことに筋力などが追いつかず、無理をしていると病院で言われた。それに加えて日々のストレッチ不足も故障の原因の一つだった。
壊すたびに安静。練習不足になり、タイムはどんどん落ちていく。楽しいはずの泳ぎがきつく、つらいものになっていく。
自分が気をつけていなかったせいだが、くやしい。休んでいる間も気だけが焦る。何かしないとという気持ちだけ持ち続ける毎日が辛い。
夏休みに家族でプールにいった。楽しかった。久しぶりに水の中に入って、やっぱりうれしかった。少し泳いでみる。うん。この感じ。顔がにやけた。
やっぱり僕は水の中が好きだ。この中で手と足を目一杯動かして泳ぐのが好きだ。速く泳ぐのが好きだ。
父親がプールの中で僕を追いかける。僕はクロールで逃げる。手で水をかく。バタ足で逃げる「カッパ1号」見参だ。
また早く泳ぎたい。今度はちゃんと、しっかりメンテナンスをしながら。
そして夢に少しでも近づけるように。夢は大きい方がいいと思っている。僕の夢はオリンピックに出ることだ。日本の代表として世界の泳ぎを間近で感じてみたい。表彰台の一番高い所に立って君が代を聞きながら、日の丸を見てみたい。
そのための努力は惜しまないつもりだ。生半可な気持ちで練習していたって叶わない大きな夢。大好きな泳ぎで、水の中で、叶えてみたい。
まずはまたスイミングで泳いで楽しいと感じること。楽しまないと僕は長く続かない。それからタイムを上げていく。前の泳ぎを取り戻すために、より一層努力して行こうと思う。
「カッパ1号」、夢に向かって再始動だ！

私の好きなこと

●青葉中学校3年

岡野（オカノ） 真奈（マナ）

私は好きなことがたくさんあります。コンピュータで気になるものを調べること、科学について考えること、ピアノをひくこと、友達と遊んだり話したりすること。でも私は、「自分の好きなこと何だろう。」と考えた時、真っ先に出てくることは「絵を書くこと」だと思います。
そう思うようになった最初のきっかけは、美術部に入部したことです。正直、入部したてのころは絵を書くことは苦手で、筆を使ったり、鉛筆を持ったりすることさえ嫌いでした。絵を書いていてもただただ体勢がきつくなり、つかれるだけだと思っていたからです。部活には話せる友達も少なく、「楽しくないな」と思っていました。
それでも部活動には課題があります。一枚目の課題であるポスターが完成したときのことです。私はでき上がったポスターを顧問の先生に見てもらいました。そのとき私は「何と言われるんだろう」とビクビクしていましたが、先生は、
「おお、上手だね。」
と、すぐにほめてくれました。あまりうまく書けていなかったので、お世辞だったのだと思いますが私はその言葉を忘れられません。本当にうれしかったです。今考えてみると、私が絵を大好きだと思うようになったのは、先生のおかげなのだと思います。
そして私は三年生になりました。塾に行きはじめたり、習い事だったりと、忙しく、部活に行くことが少なくなりました。でも、一年生のはじめとはちがって、部活動が本当に大好きです。友達も出来ました。美術室にそろって、みんなで話しながら絵をかくときが私の一番好きなときです。先月まで「世界へ向けて」がテーマの合同作品をつくっていましたが、みんながそれぞれの思いをこめた、最高の作品となりました。私たちが部活動で描く、最後の一枚でした。コンクールのようなもので、どこの学校もレベルが高く、賞をとることはできませんでしたが、自分たちの中での一等賞であり、自信作です。一学期が終わり、部活動も引退となりましたが悔いはありません。これから私たちには、高校受験がありますが、美術部の大好きな友達がいればがんばれると思います。部活動を行ったこの三年間はきっと私の「一生の思い出」になるでしょう。

九州電力賞

大すきなどうぶつたち

●野芥小学校2年

羽鳥（ハトリ） 友宇（ユウ）

わたしは、どうぶつがすきです。どうぶつ園にいるどうぶつの中では、ぞうとキリンがすきです。ぞうがすきなりゆうは、はなでたべものをつかんで、口まではこんでたべるのがテレビで見てかわいいなと思いました。キリンがすきなりゆうは、どうしてくびがながいのかなと思ったからです。水ぞくかんの中では、いるかがすきです。わけはいるかのなきごえのキューがかわいいからです。
わたしのいえにもどうぶつがいます。ねこが2ひきいて、すこしまえまでいぬがいました。でも、しんでしまってかなしかったです。ねこは、オスとメスです。オスは、人なつっこくていつもよってきます。メスはさわろうとするとシャーといいます。でも、2ひきとも大すきです。2ひきともすてられていたけど、今は、元気にくらしています。すてた人はわるいと思いました。
わたしのしょうらいのゆめはペットショップのてんいんさんになりたいです。本とうは生きものをうるのはいけないことだけど、犬やねこをたいせつにしてくれる人にとどけたいです。わたしのペットショップには、ペットをさわれるコーナーをつくりたいです。わけは、おきゃくさんにその犬やねこのことをもっとしってもらいたいからです。そうすればもっとすきになってもらえるとおもいます。
おとうさんとおかあさんは、大学でどうぶつのべんきょうをしていたとおしえてくれました。その大学には、犬や猫だけじゃなくて、うまやうさぎやひつじなんかもい

たそうです。わたしは、大きくなったらその大学で、おとうさんとおかあさんのようにどうぶつのべんきょうをしてみたいです。どんなどうぶつでもおせわができるようにがんばってべんきょうしたいです。

大好きな読書

●西高宮小学校6年

入江（イリエ）　健太（ケンタ）

ぼくは本を読むのが大好きです。しかし最近、勉強や習い事などであまり読む時間がありません。さらにお父さんから、「目が悪くなるから夜は読んだらだめ」といわれ、ますます読む時間が無くなりました。なので夏休みなど、ひまな時にたくさん読みました。すると今度は、お母さんから「ずっと近くを見ていると目が悪くなるから三十分おきに休けいをしなさい」といわれました。なので今はぼくの読書の時間はあまりありません。

ぼくの好きな本の読み方は、いすにすわって音楽も何もかけずページをめくる音しか聞こえないような静かなところで読むのが好きです。また、ベランダなどにいすを出してそこで読むのも、自然の声が聞こえて気持ち良く読むことができるので好きです。

読書の時間が短い分その時間を大切にしようと集中して本を読むことができるので逆に良かったのかなと思います。また、お父さんやお母さんに制限をかけられたおかげで、視力が落ちなかったので本当にお父さんやお母さんには感謝の一言に限るなと思いました。

空手を続ける覚悟

●博多中学校1年

大坪（オオツボ）　さくら

私は小学校一年生のころに空手に出会いました。見学に行ったときものすごく格好よくて、強くなりたいと思い空手を始めました。でも形を覚えるのが難しくいつも怒られていました。空手は、形と組手があり、形はきれいさ、スピード、力強さ、表情、声の大きさで審判によって決められます。組手はすんどめで普段のケンカのようにあたったと思われればポイントが入ります。頭をけると三ポイント、顔をつけば一ポイント、おなかもつけば一ポイントとなります。

私は何度もやめたいと思うことがありました。理由は組手がこわくて、痛かったからです。でも自分がやりたいと言いだしたし、初めて習い事をしたのが空手だったし、強くなって泣き虫とよばれたくなかったからです。うれしかったのは、試合で勝ったと先生にほめられたときだから今まで続けられたのだと思います。でも体力がなくて全く勝てないときもありました。先生におこられるときは必ず組手のときは手が伸びてないや、声が出てないといつも先輩たちにボコボコにされてました。でもそのおかげで体力もつきすごくうれしかったです。空手はいろいろな自分が知ることができました。審査は一年に二回あって一度うけると一級ずつ上がっていきます。今私は一級で次初段補になりたいです。やく黒帯になりたいです。

空手のおかげでたくさんの人と絆を深めることができました。自分がはじけたように、静かだった私が声も出ているし、明るく表情もよくなっていると思いました。

私は今後部活の剣道と空手を一生懸命頑張っていろんな人に空手は楽しい、人生変われるということを知ってもらい、たくさんの人にやってもらいたいと思います。私も両方がんばってもっと体力をつけて先輩に迷惑をかけないようにに練習をつみかさねていきたいです。

逃げないで。私の好きなこと。

●香椎第三中学校2年

甲斐（カイ）　菜津美（ナツミ）

私は絵を描くことが大好きです。なぜかというと、絵を描くことは楽しいし夢中になれるからです。どんなに嫌なことがあっても、絵を描いたら心が落ち着くので良いストレス発散法にもなっています。

しかし、私にも絵を描くのが辛いと思う時期がありました。自分の絵が周りからどう思われてるか、自分の絵への評価を気にしすぎたのです。

その思いは日に日に大きくなっていき、しまいには「なんで、先輩は上手な子にしか話しかけてくれないんだろう」とか、「私だって頑張って絵を描いてるのに、上手な子だけ評価されるのはずるい」と思うようになりました。自分が評価されないことに対して自然に、大切な先輩や大切な友達に当たっていたのです。今、思うととても情けないです。特にSNSからの評価を気にして、ひとつ絵を描くにも「上手に描かないと評価されない」とプレッシャーを感じるようになり、思うように絵が描けなくなってしまいました。SNSに絵をあげている同世代の絵を見るたび、自分の絵の下手さが実感できてひどく落ちこみました。同じ世代だからこそ、交流して仲良くできるかもしれないのに・・・。とにかく、その頃の私は今よりも自分の絵に自信を持てていなかったのです。

そんなとき、私は動画投稿サイトである動画を見つけました。その動画は、「イラストの成長記録」の動画です。幼稚園の頃から現在までに描いたイラストを紹介している動画です。投稿している人は、一人だけではなく何人かいま

りません。

ぼくの好きな本の読み方は、いすにすわって音楽も何もかけずページをめくる音しか聞こえないような静かなところで読むのが好きです。また、ベランダなどにいすを出してそこで読むのも、自然の声が聞こえて気持ち良く読むことができるので好きです。

読書の時間が短い分その時間を大切にしようと集中して本を読むことができるので逆に良かったのかなと思います。また、お父さんやお母さんに制限をかけられたおかげで、視力が落ちなかったので本当にお父さんやお母さんには感謝の一言に限るなと思いました。

空手を続ける覚悟

●博多中学校1年

大坪（オオツボ）　さくら

私は小学校一年生のころに空手に出会いました。見学に行ったときものすごく格好よくて、強くなりたいと思い空手を始めました。でも形を覚えるのが難しくいつも怒られていました。空手は、形と組手があり、形はきれいさ、スピード、力強さ、表情、声の大きさで審判によって決められます。組手はすんどめで普段のケンカのようにあたったと思われればポイントが入ります。頭をけると三ポイント、顔をつけば一ポイント、おなかもつけば一ポイントとなります。

私は何度もやめたいと思うことがありました。理由は組手がこわくて、痛かったからです。でも自分がやりたいと言いだしたし、初めて習い事をしたのが空手だったし、強くなって泣き虫とよばれたくなかったからです。うれしかったのは、試合で勝ったと先生にほめられたときだから今まで続けられたのだと思います。でも体力がなくて全く勝てないときもありました。先生におこられるときは必ず組手のときは手が伸びてないや、声が出てないといつも先輩たちにボコボコにされてました。でもそのおかげで体力もつきすごくうれしかったです。空手はいろいろな自分が知ることができました。審査は一年に二回あって一度うけると一級ずつ上がっていきます。今私は一級で次初段補になりたいです。やく黒帯になりたいです。

空手のおかげでたくさんの人と絆を深めることができました。自分がはじけたように、静かだった私が声も出ているし、明るく表情もよくなっていると思いました。

私は今後部活の剣道と空手を一生懸命頑張っていろんな人に空手は楽しい、人生変われるということを知ってもらい、たくさんの人にやってもらいたいと思います。私も両方がんばってもっと体力をつけて先輩に迷惑をかけないようにに練習をつみかさねていきたいです。

逃げないで。私の好きなこと。

●香椎第三中学校2年

甲斐（カイ）　菜津美（ナツミ）

私は絵を描くことが大好きです。なぜかというと、絵を描くことは楽しいし夢中になれるからです。どんなに嫌なことがあっても、絵を描いたら心が落ち着くので良いストレス発散法にもなっています。

しかし、私にも絵を描くのが辛いと思う時期がありました。自分の絵が周りからどう思われてるか、自分の絵への評価を気にしすぎたのです。

その思いは日に日に大きくなっていき、しまいには「なんで、先輩は上手な子にしか話しかけてくれないんだろう」とか、「私だって頑張って絵を描いてるのに、上手な子だけ評価されるのはずるい」と思うようになりました。自分が評価されないことに対して自然に、大切な先輩や大切な友達に当たっていたのです。今、思うととても情けないです。特にSNSからの評価を気にして、ひとつ絵を描くにも「上手に描かないと評価されない」とプレッシャーを感じるようになり、思うように絵が描けなくなってしまいました。SNSに絵をあげている同世代の絵を見るたび、自分の絵の下手さが実感できてひどく落ちこみました。同じ世代だからこそ、交流して仲良くできるかもしれないのに・・・。とにかく、その頃の私は今よりも自分の絵に自信を持てていなかったのです。

そんなとき、私は動画投稿サイトである動画を見つけました。その動画は、「イラストの成長記録」の動画です。幼稚園の頃から現在までに描いたイラストを紹介している動画です。投稿している人は、一人だけではなく何人かいま

した。長い人では約15年間のイラストを紹介していました。どの人も、初めから絵が上手だったわけではなく、何年も絵を描き続けてきたから上達したのだろうと思います。その動画を観て、「人にはそれぞれ自分のペースがある。私も周りの評価なんて気にせずに自由に絵を描きたい」そう思うことができました。絵を描く本来の理由を見失っていた私を気づかせてくれたのです。

絵を描く上で私が苦手なことはたくさんあります。手足も、ポーズも、色ぬりもまだまだ全然描けません。今までの私は、苦手なところをごまかしたり練習もほとんどしていませんでした。苦手なことから逃げてばっかりじゃ、絵は上達しません。努力もしていないのに周りからの評価が得られるわけがないのです。友達も先輩もみんな努力しています。せっかく、そのことに気づけたのでこれからは、苦手なことから逃げずに画力向上を目指して頑張ります。周りからの評価も大切だけど、何よりも「好きなときに好きなだけ好きなように」絵が描ければ、私は満足です。もしまた、逃げてしまいそうになったときも、あきらめそうになったときも、とりあえず絵を描き続けます。絵に救われることもあるのです。

私が大好きなこと

●野間中学校3年

徳永（トクナガ）　菜摘（ナツミ）

今年は私にとって、とても大事な一年です。なぜかというと、人生が左右される高校受験があるからです。

塾の夏期講習の授業は朝から夕方までであり、授業後には十時すぎまで残って自習をしています。受験生が勉強をするのは当然の事ですが、勉強が苦手な私にとってこの一日の過ごし方は、正直とてもつらいです。しかし、その中で私には楽しみにしている時間があります。それは、お昼の時間です。私は、母が作ってくれるお弁当が大好きです。母のお弁当は、色取り取りの具材が丁寧に並べてあり、味もすごくおいしいです。時々お弁当箱の蓋に、母からのメッセージカードが添えてあります。こういった母の優しさが、午後の勉強へのやる気につながります。

中学一年生まで私は、兄と弟二人の四人で一つの部屋で勉強をしていました。そこで父は、家族みんながもっと快適に過ごせるようにと、立派な家を建ててくれました。新居には受験勉強にしっかり集中できるようにと、私の部屋も作ってくれていました。父は、どんなに忙しくても私が解けない問題を、私が理解するまでしっかり教えてくれます。兄と弟も、私が勉強しやすい環境作りをしてくれて、家族みんなが陰からいつも支えてくれています。

私は、応援してくれている家族のためにも志望高校に合格できるように頑張ります。私は、優しい家族のみんなが大好きです。

「私にとって家族は、宝物です。」

西部ガス賞

ぼくの大すきなもの

●名島小学校　3年

田川（タガワ）　凌生（リョウセイ）

ぼくの大すきなものを書きます。

まずぼくの大すきなくだものはなしです。しゃりしゃりしてるのがいいところが大すきです。

ぼくの大すきな遊びはドッチボールです。ボールをとったりなげたりするのが大すきです。ときどきボールがあたっていたい時もあるけど楽しいです。

ぼくの大すきな人は友だちです。ときどきけんかもするけどいっしょに遊ぶとすぐなかなおりできます。自分が元気がないときも友だちがいれば元気になれます。

大すきなものはまだまだたくさんあるけど一番大すきなものは家族です。

お父さんの大すきなところは休みの日にいっしょにキャッチボールをしてくれるところです。とてもやさしいのが大すきです。

お母さんの大すきなところはいっぱいおこるけどおいしいりょう理を作ってくれて、家族のためにいろいろ家のことをしてくれるところです。

弟の大すきなところはかわいくて、おもしろくていっしょに遊ぶと楽しいし、ときどきおかしを分けてくれるところです。

そんな家族が大すきです

ぼくの大好きなスポーツ

●小田部小学校6年

川田（カワダ）　航平（コウヘイ）

ぼくが好きなスポーツはラグビーです。理由は三つあります。

一つ目の理由はラグビーはカッコイイスポーツだからです。くわしく説明すると相手は全そく力で走ってぶつかってきます。その相手をタックルでとめなければいけません。相手は走って向かっているので痛くないわけがありません。だからチームのために勇気を振りしぼってタックルをするのはとてもカッコイイと思います。

私が夢中になっていること

●香椎第三中学校1年

大瀬良（オオセラ）　遥（ハルカ）

私が今、夢中になっていることは部活です。みんな汗だくになりながら、真っ黒になって一生懸命練習する女子ソフトテニス部です。

テニスは、努力すればするほど上達するスポーツで、練習でも一本一本試合をイメージして打つことがとても大事です。

入部して初めてテニスに対して火がついたのは、今は卒部した三年の先ぱい方の中体連です。ダブルスで、「二人で一つ」と口で言うのは簡単ですけど、先ぱい方のプレーはまさにそのものでした。試合中、両足をつるなどのハプニングがあっても、そこから二人で巻き返して逆転勝ちをしたりもしました。本当に一試合一試合感動で、自分も絶対こういうプレーができる選手になりたい、という大きなあこがれも持つようになりました。

そんな先ぱいが卒部した今、私に最初の目標ができました。二年生の先ぱい方は、三年生が達成できなかった県大会を優勝し、九州大会に出場することを目標にしています。九州大会というのは簡単に口に出してはいけないほどレベルが高いです。けれどそれを知った上で先ぱい方は目指しているんです。私の目標は、そういう先ぱいに見合う後はいになることです。暑くて苦しい中でも大きな声を出し続けてチームの雰囲気を上げていく、試合中は、しっかり集中できるような環境を作る一つの集団として全員で試合に挑む、そんな後はいになりたいです。これは絶対に言葉だけにしません。自分の目標を自分で達成するため、努力することに夢中になっているのです。

ボールは勝手に方向を変えたりしません。全て私たちが持つラケットが勝ち負けを決めます。なので、試合の結果は努力の結果です。自分の目標に向かって、技術的な面でもしっかり成長していきます。体力作りからフットワーク、素振りまで一生懸命練習にはげみます。そしていつかは二人の目標を達成し、自分がいうのはすごいあっというまに過ぎていくそうなんです。だからこそ、今あるこの時間、一本一本を大切に打っていきます。そして大人になったときに「良い時間だったな。」と思えるような時間になるといいなと思います。

今まで、ここまで何かに打こんだことはありませんでした。ここまで「努力をしたい」という気持ちになったのも初めてでした。だから今、すっごく楽しいです。

私は今、「部活」に夢中です。

私の好きな事

●松崎中学校2年

小濱（オバマ）　明日香（アスカ）

そろばんは、私の友達であり、私の好きな事でもある。

私はそろばんを小学校1年生から習っている。きっかけは友達からの誘いであった。でも、そろばんとは何か、その頃はまだ知らなかった。結局、友達からの誘いの勢いで、不安でたくさんの心の中、入ることにした。大丈夫かな。

初日。緊張していた私だったが、そろばんを先生に教わりながらやってみると、意外にも楽しかった。これがそろばんなんだ。緊張していた私に笑顔がこぼれた。その日から、楽しくてしょうがないのだろう。毎日のように家でそろばんの練習をした。その成果があり、どんどん級は上がっていく。上がっていくたんびに頑張って練習をした。上がっていくのがとっても心地よく、うれしかった。

そして、四年の月日がながれ、大会に出場できることになった。とってもうれしく、不安もあった。私には、戦友と呼べる同学の友達がいる。その戦友は幼稚園の頃からそろばんをやっていて、私よりかは上手だ。けれど私は努力してきた。負けたくない。でも、もし負けたら私はどんな気持ちになるのだろうという不安もあった。でも私は、勝つための努力を持続した。

大会当日。緊張して指が震えそうだ。心の中で何度も言い聞かせた。大丈夫。大丈夫。そして、いよいよ競技が始まる頃になった。肩に何かが触れた。振り返ると戦友が、

「頑張ろうね。」

と言った。私は、うん。と答えた。

成績発表。私は願った。どうか賞に入れますように、と。

二つ目の理由はだれにでもヒーローになれるチャンスがあるというところです。ラグビーには体の大きい子や小さい子、足の速い子やおそい子、などたくさんいます。でもラグビーは、どんなに足がおそくても、タックルが上手だったり一つの個性でいきなりヒーローになれるチャンスがあるのです。ラグビーにはたくさんのポジションがあるので、自分のスキルを活かせるスポーツというところもみりょくです。

三つ目の理由は、みんなで協力してトライをきめる事です。トライをきめるには痛い思いをしてタックルにはいったり、きついのをガマンしなければいけません。協力してボールをまわしてみんなで苦労して決めるトライは達成感と同時に、仲間とのキズナをくれます。

この三つの理由から僕はラグビーが大好きです。これからもっとラグビーでかつやくできようになって花ぞのをめざしたいです。

「第五位〇〇教場。」

あっ、私の教場だ。心臓の音が、だんだんと速くなってきているのが分かる。私が呼ばれるかな。期待した。でもその期待は一瞬にして崩れた。五位は、戦友だった。そして、私は名前を呼ばれないまま大会を終えた。帰る時、戦友はうれしそうにトロフィーを持っていた。それを見て悔しかった。涙がでそうだった。でも、戦友の前では必死にこらえた。お母さんが迎えに来た。私は車に乗った。私は泣いた。悔しくて、人一倍努力したのに賞をとれなくて。でも、そんな中でも、来年は絶対に勝つという熱い気持ちがでてきた。そろばんが好きだから。

私はその日から、大会の反省を生かして、頑張って練習をした。私は、あの日の悔しさをバネにしたのだ。

そして五年生になり、大会の日がやってきた。私は負けない。頑張ったから。

競技が始まった。私は頑張って問題を解いた。その時は何も考えれなかった。

成績発表。やれることはやった。今年こそ賞に入るぞ。

「第五位、〇〇教場。」

私の教場だ。今年は賞に入れそうな気がしてたまらない。でも名前を呼んだのは戦友の名前だった。私はまた負けた、と思った。けれど、私の努力は神様が見ててくれたのだ。

「第三位、〇〇教場、小濱明日香。」

私は驚いた。いや、驚くことしかできず何も考えられなかった。五位よりも大きなトロフィーをもらい、成績発表が終わった。

私が、三位。三位だ。私はうれしくて、うれしくて、涙がこぼれた。でも去年とは違う涙。うれし涙だ。うれしくて、車の中でも、ずっとトロフィーを抱いていた。家に帰ると、家族みんな、おめでとう。と言ってくれた。改めて、そろばんが好きになった。

それから三年。私は中学校二年生となった今でも大好きなそろばんをやっている。今では、戦友よりも上手になって、よきライバルでもある。私は、そろばん教室に入って、なにより感じたのが、好きな事を一つ見つけると、幸せになれるということだ。好きな事が時には嫌になったりするときもあるけれど、大事なことは、あきらめずに努力していくことだと思う。努力は必ずむくわれるとはかぎらない。けれど、どんな努力でも、無駄な努力は一つもないと思う。だから、好きな事を無理に探す必要はないけど、もし、も好きな事ができたのなら、簡単には手離してはだめだと思った。

中学校二年生になった今、大好きなそろばんと一緒にすごしている。そろばんは私の友達だ。棚の上にあるトロフィーは、数が増えて、夕日にてらされきれいに輝いている。

博多の誇り

●長丘中学校3年

砥綿（トワタ）　昂敬（タカトシ）

七月。それは、自分の最も熱くなる月である。なぜならば、博多祇園山笠があるからだ。この祭りは、一二四一年に博多に疫病がはやったときに聖一国師という承天寺の住職が木の台にのって水をまき町を清めたことが由来だ。今年で七七七年になる歴史のある祭りなのだ。

自分がこの山笠に初めて参加したのは0歳からであった。父に抱きかかえられて走っていたそうだ。それから15年間学校の授業も塾も部活も全て放ったらかして、山笠に参加している。

なぜただの祭りなのに、そんな熱心にするのだろうと疑問をもつ方もいるだろう。理由は二つある。

一つ目は、とにかく楽しいからだ。ふざけるおもしろさではなく、真面目にやる楽しさを味わうことができる。そして山笠をかくのもまた楽しい。このかくというのは、山笠の棒に縄をかけて肩をつけ、前へ走ることだ。この舁くというのが実に楽しい。足下の胴がねのけずれる香りと木の香りも忘れられない。そして、独特な緊張感。これもまた山笠を楽しくする要因なのかもしれない。

二つ目は、大人になるための知識が学べるからだ。山笠期間中は毎日祭り終了後に、なおらいと呼ばれる宴会のような物が開かれる。昔は、神酒を頂き神饌を食していた。しかし最近ではビール焼酎に、様々な料理がふるまわれる。自分が出ている西流冷泉四区では、ぜんざいや貝汁もでてくる。このなおらいでは、ベテランの方に、あいさつの仕方や返事の仕方などの社会に出て役立つものから、山笠についての基礎知識など教えていただいている。また、大人の中の上下関係を理解し、社会への一歩をふみ出すこともできる。

このように、博多祇園山笠は、様々なことが学べて、しかも楽しいという人生にとってとても良い祭りなのだ。人生の大切なことが山笠は、人生で一度だけでもいいから、参加したほうが人生をより楽しむことにつながるのではないだろうかと自分は考えている。

JA福岡市賞

あ・うん

●鳥飼小学校3年

米倉（ヨネクラ）　未帆莉（ミホリ）

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、とてもなかがいいです。

おじいちゃんが

「おい、お茶。」

と、言うと、おばあちゃんが、すぐにお茶を持ってきてくれます。

おばあちゃんが、つけ物をつける時間になると、だまって畑からナスやキュウリをとってきてくれます。

二人は、何も言わなくても、おたがいの考えていることが分かるみたいです。それを、あうんのこきゅうと言うみたいです。

おじいちゃんとおばあちゃんは、けっこんして、五十年たちます。五十年の間にお母さんが生まれて、仕事がいそがしくてけんかをしたり、なかなおりして、たすけ合ってきたと思います。

わたしは、八年間しか生きていないので、五十年は、わたしにとっておったまげえとかんじるぐらい長いです。

今年、おじいちゃんとおばあちゃんの金こん式のおいわいをします。

わたしは、二人にお母さんを生んでくれてありがとう、と言いたいです。

だって、お母さんが生まれないと、わたしが生まれてくることができなかったからです。

おじいちゃん、おばあちゃん金こん式本当におめでとうございます。

私の大好きな書道

●西高宮小学校6年
紺藤（コンドウ） 菜加（ナノカ）

私が好きなことは、書道です。なぜなら、心が落ち着くし、楽しいからです。私は、習い事で書道が大好きになりました。

書道をするときは、友達と一緒に楽しくしています。また、私の書道の先生は、とても優しいおだやかな人です。時には厳しく注意もする、とても良い先生です。先生のおかげで、私は毛筆が五段、こう筆が七段までなることができました。

最初は、毛筆がとても苦手できらいでした。でも、今では毛筆も大好きです。毎日、書道がある水曜日を、とても楽しみに友達と待っています。もっと上手になって、段を一番上の特待にしたいです。

しかし今は、先生が体調をくずしています。だから書道もしばらくしていません。先生が早く治って、大好きな書道を早くできたらいいな、と思っています。

私は、大好きな書道と先生のおかげで、もっと字が上手になりました。書道が大好きなので、年をとったら書道の先生になろうとも考えています。そのために、もっと字が上手にかけるようにがんばりたいです。

私は、書道が大好きです。書道は私にとって、夢中になれる、大切なものです。これからも、字がもっと上手になれるように、ずっと続けていたいです。

私の大好きなもの

●野間中学校1年
渋田（シブタ） 文音（アヤネ）

私の大好きなもの、それはディズニーです。勉強机や自分の部屋など、私の身の回りはディズニーだらけです。曲もよく聴くし、何回か行ったこともあります。なぜ私はこんなにディズニーが好きなのか考えてみました。それは、ディズニーに行ける出来事がきっかけでした。

私は、小さい時から足の病気があり、小学5年生の時、入院して手術をしなければいけなくなりました。友達やクラスメイトが、応援してくれましたが、やはり、いやでした。もし、手術が失敗したらどうしよう、手術中に目が覚めたり、反対に終わっても目が覚めなかったら、どうなるんだろうと、毎日、恐くて不安でした。そんな私に両親は「じゃあ、退院して歩けるようになったら、みんなで、ディズニーに行こう。」と言ってくれました。私はとてもうれしく、その言葉をはげみに手術を受けました。そして、手術は無事に成功しました。しかし、術後の足の痛みはひどく、特に2日目、3日目の夜は、なかなか寝られませんでした。それから数日後、足の痛みは、大分治まり、車いすや松葉杖での移動の練習が始まりました。その中で予想外だったのがリハビリです。手術で動かなくなった足を動かす事は、きつく、大変でした。その後、術後の経過がよく、思っていた以上に順調に回復し、予定よりもかなり早く退院することができました。しかし、まだ足を自由に動かせる訳ではなかったので、3ヵ月は松葉杖生活と言われていました。でも、あと3ヵ月たって、歩けるようになれば、ディズニーに行けるんだと思い、それをはげみに家でのリハビリを頑張り、松葉杖生活を送りました。松葉杖生活は、家の中にいても、不安な事がありました。夜、寝ている時に、寝返りを打ってしまわないか、家の中で転ばないかなど、色々考えていました。学校では、みんながすごく気を使ってくれて、色々な場面で、助けてもらいました。そして、3ヵ月後には、頑張ったリハビリのおかげで、松葉杖は無事に外れ、歩けるようになりました。その約一週間後には、ずっと楽しみにしていたディズニーに行きました。自分の足で歩いて、色んなところに行き、色んなキャラクターに会い、人の手を借りず、自由に自分の足でパーク内をめぐる事がすごく楽しくて、手術前の不安な気持ちや怖さ、手術後の痛みと動けない辛さ、そして、リハビリのきつさと大変さなど全部吹き飛び、ディズニーが更に好きになりました。

この事から、私は将来、人を楽しませたり、笑顔にする仕事につきたいと思うようになりました。そして、出来たら大好きなディズニーに就職して、1人でも多くの人を楽しませ、あらゆる人を笑顔に出来ればと思っています。

大好きだから学べたこと

●照葉中学校2年
鶴屋（ツルヤ） 美咲（ミサキ）

私は、たくさん大好きなものがある。順位なんてつけられない。でも今夢中になっているものは、ダンスだ。私は小学校四年生の時に、アイドル活動をするアニメがとても大好きだった。アイドル活動なのでダンスや歌をしているアニメだ。そのアニメが、私がダンスを好きになるきっかけ。それに仲の良い子がダンスを習っており、憧れていた。それまでダンスとは無縁の人生だった分、ダンスのことを考えるだけでもうきうきわくわくきらきらしていた。それから、あるアーティストを好きになり、ダンスを本格的に始めたいと思いが芽生えてきた。だが、家族になかなか言えずにいた。部屋で鏡を見ながらひとりで真似事をしているのも、バレたくなくてめちゃくちゃこっそりしていた。だがダンスを始めたい思いが頭をまったく離れないので、打ち明けた。その時私はたくさんの習い事をしていたのだが、全てやめてダンスをしたいと言った。すると当然だが反対された。しかしあきらめきれず毎日泣きながらお願いした。全てやめてダンスをしたいといったのは、新しい人生をはじめたかったから。だけどそんなに簡単にリスタートはできないのが当然。だからほかの習い事をやめれなかったがダンスを始めるのは許してくれた。そして、やっと小学六年生でダンスを始めた。その頃は、毎週一回のその時間の為だけに生きていたといっても過言ではないだろう。それからさらにレベルの高いダンスをしたいと思って、もう一つ、ダンススタジオに通いだした。そこは知名度もレベルもとても高い所だ。同じ年代の子達は、皆三歳からダンスをしていたり、格が違うダンスをしていた。そんな中にダンスを始めて一年にも満たない未熟者の私が入って、ついていくのに精一杯で楽しむ余裕など、これっぽっちもなかった。ダンスが嫌いになったし、自分も嫌いになっていった。でも、試行さく誤しながらなぜか続けていた。やっぱり根本的な部分でのダンスへの愛情は変わっていなかったんだと今は思う。それから悔しい思いもつらい思いもたくさんした。でも地道に頑張った。すると転機がやってきた。急に声をかけられとても飛やくすることができた。一生懸命したら絶対にむくわれるという鉄ぱんすぎる言葉しか、私の語彙力では出てこないが身を持って実感した。今の立場になってからも、レベルが上がった分悩むこともたくさんある。でも、悩んでいるレベルが明らかに以前の自分と違う。人生は山あり谷ありというのは本当で、悪いことの後はいいことがあり、そのあとにはまた試練が来る。しかしまた来た試練を越えたとき、その時の自分は人間としても他のことでも成長している。

だから、私は悩んだり、落ち込んだりすることを決して恐れていない。それに向き合えば必ず成長するということを知っているから。私は、様々な経験からこのような考えの生き方になった。でも、一番忘れてはいけないものは、精一杯することと、堂々とけんきょでいること。このようにいることが考えれるようになったのも自分の思いを聞いてくれた家族や刺激をくれた仲間のおかげです。とても感謝しています。

そして、私がダンスに出会った時のように、ある事で急に人生が変わるかもしれないので、日々、見るもの・聞くもの・感じるものを大切に自信を持って生きていきたいです。

勝利のために

●照葉中学校3年
村上（ムラカミ） 晃史郎（コウシロウ）

「ゲームセット」

この瞬間僕とペアの夏が終わった。僕が一番好きなテニスが終わった。

僕がテニスを始めたのは、約二年前の春。入学式が終わり、入部届を誰よりも早く出して一番にテニス部に入部した。僕は小学生の時、野球をやっていたが以前からテニスをやりたかったので入部した。入部した時は、自分の想像と違い筋トレ、ランニング、球拾いが毎日続いた。ランニングは一日で約十キロメートル走った日もありました。だけど先輩からは

「夏休みに入ると球が打てる。」

と言われたのできつかったけど約三ヶ月間を頑張った。

いよいよ夏休みに入ると先輩が言ったように球が打てるようになった。球が打てる喜びでテニスが楽しくて、楽しくてしかたなかった。部活が終わって家に帰ったらまたすぐにボールを打ちたくなる。夕ごはんを食べ終わって

「テニスがしたい。」

と言うと母はあきれた顔をした。朝は日の出の時間を調べて毎朝六時から打ち始めた。

夏休みが終わり二学期が始まると授業で部活動の時間が減り正直学校が楽しくなかった。だけど授業が終わると同時に走ってコートに行った。テニスをする時間が一日の中で一番楽しみで一番楽しい時間だった。

冬がきて大きな大会があった。ぼくはチームの代表として出ているのに不甲斐ない試合をしてしまった。その時以来、僕はテニスを楽しむだけでなく、努力して、工夫して、研究して相手に勝つことを考えるようになった。そして、考えれば考えるほどよりテニスがいっそう楽しくなった。

二回目の夏がきた。去年の夏とは大きく違った。理由はキャプテンを任せられたからだ。今までは自分の事だけを考えればよかったがチーム全体のことも考えないといけなくなった。キャプテンをひきうけたものの何をしていいのか正直わからなかった。そん

な自分に対して先生は、「努力する姿でチームを引っ張ってくれ。」と言った。ぼくは少し楽になった。

そこから僕は勝つために誰よりも努力した。そして最後の大会では団体戦で三位、個人戦では準優勝した。この時は最高に嬉しく楽しかった。

僕はテニスが大好きだ。最後の大会で結果を残せたのも一度も部活をやめたいと思わなかったのもテニスが大好きだったからだと思う。勝利のために夢中になった時間は最高に楽しかった。

西日本鉄道賞

わたしが大すきなこと

●箱崎小学校4年

大杉（オオスギ）　会季（アキ）

わたしは家族のことが大すきです。わたしの家族は、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、わたしの4人家族です。

お父さんは、手品などが上手で、わたしのことをたくさんわらわせてくれます。

お母さんは、時々おこることもあるけど、その分わたしを気にかけてくれています。そして、お母さんの作るごはんはわたしにとって世界一おいしいごはんです。

お姉ちゃんは、わたしとたくさん遊んでくれます。今年は、受験があってあまり遊べないけど、受験がおわったら、またたくさん遊びたいです。お姉ちゃんには、たまにけんかをした時に、「お姉ちゃんなんか大っきらい！！。」というけど本当はとっても大すきです。

おこられたり、けんかをしても、わたしは家族のことが大すきです。

そして、わたしがこんなに大すきな理由は2つあります。

1つ目は、わたしにたくさんおこってくれることです。おこられている時は「なんだよ！！。」と思うけど、おこられたあとは「これからはあんなことしないように気をつけよう。」と思うからです。

2つ目は、わたしをたくさんわらわせてくれることです。わたしが悲しんでいる時や泣いている時、いつもわらわせてくれます。わたしの家族がいつも暗い顔だったら、きっとわたしは、家族のことがあまりすきじゃありません。でも、今はみんなが表じょうをえがおにしあっている温かい家族だからです。

それから、家族との一番楽しい時間は、家族4人そろって夜ごはんを食べることです。お父さんは仕事でおそくなり、たまにしか4人そろって食べることはできません。どうしてそんなに夜ごはんをみんなで食べるのがすきかというと、学校がおわり、みんながはぁーとなっている時、ほかのみんながわいわいしゃべっていたらつかれなんかすぐふっとんでいってしまうからです。

そして、毎日わたしが、家族にしていることがありそれは、

「いってらっしゃい、がんばってね、気をつけてね。」

というあいさつです。ふだんは、わたしが一番最後に家を出ることが多いので、家族にたくさんの愛じょうをもらっている分、わたしもおかえしをしています。

そしてこれからは、わたしが家族からたくさんの愛じょうをもらっていて、気持ちがとっても温かくなるので、その愛じょうをほかの人にもわけてあげて、まわりの人、そして世界じゅうのみんながもうこれい上だせないくらいのえがおにできるようにしたいです。

私の大好きなおばあちゃん

●和白東小学校6年

塩﨑（シオサキ）　琳菜（リンナ）

私はおばあちゃんが大好きです。なぜかというと、おばあちゃんはやさしいし、とてもいい人で人生のいいせんぱいだからです。おばあちゃんの家にいくととてもおちついてとてもうれしくなります。ねこがいるってこともあるけどとてもたのしいです。家の中にいっしょにいると、むかむかしていたこともおちついたりしてとてもすごいなと思いました。おばあちゃんといっしょにすごすと1日が早く終わるような気がしてちょっとざんねんです。私は、2さいのころから一人でとまっていて、なにかをきくとやさしくこたえてくれて、妹が生まれて母が帰ってきてもおばあちゃんのところにいて、そのころから私はとてもおばあちゃんがすきなんだなと改めて思いました。おばあちゃんは花が好きで、生け花の先生です。だから、生け花を教えてもらえて、ふだんは、できない体験ができることがとてもたのしいです。

わたしたちぐらいの年れいの気もちも分かってくれて、想像力が豊かで雲の形をみて、いろんな物に見えていつも「これはこんな形にみえるね」といってきてくれます。おばあちゃんは74さいなのに車が運転できて、とても字がきれいです。なんでも前向きに考えていていっしょにいると元気がでます。あと、歌がうまくてうたうすがたがかわいいです。

これから、中学や高校になっていくのでお母さんのようにこまめに「ありがとう」といえるようにしたいです。いつもお世話になっているので恩を忘れずかえしていきたいです。

僕の好きな事

●青葉中学校1年

龍山（タツヤマ）　一輝（カズキ）

僕はテコンドーという格闘技が好きです。テコンドーとは主に足技を使う韓国の国技です。日本ではマイナーな競技ですが、競技人口は約七千万人で国際的なスポーツです。そして、オリンピック競技でもあります。

僕は5歳からお父さんと一緒にテコンドーを始めました。最初はイオンのカルチャーセンターでやっていて先生にほめられたのがきっかけで、本格的に道場でやり始めました。

僕がなぜテコンドーが好きかと言うとお父さんと一緒にテコンドーをやり始めて楽しかったし一緒に練習もしてくれたからです。

小学校低学年の頃はいろいろな試合に出ていたけれどなかなか勝てなく悔しい思いをしました。また、「これ以上試合に出てもだめだ。」と思い一度辞めようともしました。しかし、今まで以上に一生懸命練習して出稽古に行ったりお父さんと猛特訓をしました。それからそのかいがあって四年生の時に初めて一勝する事ができました。その時はすごくうれしかったです。それから五年生になって試合で優勝して金メダルを獲得する事ができました。さらに賞も獲得できました。僕は今までにないうれしさを感じました。そして、六年生になって試合巧者になり全九州という大きな大会で優勝することができました。でも僕にライバルができたのがこの試合でした。

そして現在は、中学校一年生になって大人の人達と特訓をしています。中学校になったら中二や中三の先輩と戦わなければならなくなり少し不安だけど気持ちを強く持ってがんばりたいです。それから勉強も忙しくなるけど勉強はテコンドーでどちらも一生懸命に取り組んでいきたいです。

僕の目指すものは、日本代表です。日本代表になるためには全日本選手権大会で優勝することが必要です。僕は日本代表になるためにもっと練習や試合をして全日本選手権大会で優勝して実績をつくって日本代表のキップを手に入れたいです。

練習がきつくてつらくても、試合で勝ったり負けて悔しくても、それでもテコンドーが大好きです。

僕がここまで来られたのはお父さんお母さんそして先生のおかげです。特に僕の練習の相手をしてくれたお父さんに感謝しています。この気持ちを忘れず今以上に頑張っていきたいです。

栄養士という夢に向かって

●長丘中学校2年

西脇（ニシワキ）　理紀（リコ）

私には夢があります。そして大好きな先生がいます。私の夢は栄養士になることです。このきっかけを作ったのは私の大好きな先生　佐藤祐希先生です。佐藤先生は小学校5・6年生の担任を持っていただき小学校を卒業してからもたまに連絡をとっています。

小学校の調理実習の時「理紀さんは料理が上手だから栄養士になったら！？」この一言で私の夢は栄養士になりました。もともと私は小さい頃から料理が好きなおばあちゃんの影響で料理に興味があった私は野菜の皮を子供包丁で切って遊んだりしていました。幼稚園に行く頃にはお母さんのお手伝いで皮むきもできるようになりました。小学生になるとお米洗い、洗い物もするようになり私が初めて最初から最後まで1人で作った料理はやきそばです。それを食べたお父さんとお母さんは「おいしい。ホントにおいしい。」といって食べてくれました。とってもうれしくて私は料理が大好きになりました。それからは、肉じゃが、卵焼き、カレーとどんどんレパートリーがたくさん増えていきました。私は人に「おいしい」といってもらうのが大好きです。今年の夏休み、小学校の大好きなメンバーで佐藤先生に会いに行きました。その時私はバナナマフィンを作っていきました。それを食べた先生は「理紀さん、料理また上手になったね。とってもおいしい。」といってくれた時、『あー。やっぱり私は人においしいといってもらえること、料理を作ること、それが大好きなんだな。』とあらためて感じました。

私は栄養士になったら、幼稚園や保育園、病院に入院している人達においしくて温かいごはんを食べてほしいです。挫折しそうになったら、家族や友達、大切な人達がおいしいと言っている笑顔を思い出してあきらめず、夢に向かって頑張ります。

私の好きなこと

●長丘中学校3年

本村（モトムラ）　英玲奈（エレナ）

まだドキドキしている。

本を読み終わっても、余韻は残る。悲しい物語でしばらく気持ちが下がっていたり、事件の真相が分かってすっきりしたりする。その余韻にひたっているとき、私はとてもしあわせだ。

私は物語を読むことが好きだ。いつから、どうして好きになったのかは覚えてないが、小学生の頃にはすでに、本を読むことに夢中だった。昼休みになると、毎日のように図書室にかよった。おかげで、どの本がどこにあるのか見当がつくようになった。

私が今まで読んだなかで一番衝撃的だった本は、芥川龍之介の「鼻」という作品だ。難しい人間の感情を的確に表現していた。私は、主人公に共感した場面がいくつもあった。羨望、妬み、意地、喜び、いろいろな感情をしっかりと読み手に伝えていて、心からすごいと思った。感動した。物語を読んでいると、様々なことを知る。私は何年か前に、とても悲しい結末の本を読んだ。それまでハッピーエンド

しか読んだことのなかった私は、とても驚いた。楽しい結末ではない本もあるのだと、そのとき初めて知った。

物語より図鑑や伝記を読んだ方が、得られる知識は多いかもしれない。しかし、それらでは感じられないことがある。心の動きや優しさ、ときめきを、物語を読むことで感じることができるのだ。

私はこれから、もっとたくさんの物語を読んでいきたい。特に読みたいのは、名作といわれている本だ。「吾輩は猫である」や「老人と海」など、書かれてから現在まで、たくさんの人に読まれてきた本を読みたい。どんなことを知り、感じることができるだろう。もしかしたら「鼻」以上の衝撃をうけるかもしれない。そう思うと、ワクワクしてくる。

心から楽しめた本は、読み終えたときに何もしゃべれなくなる。でも心の中は、喜びと興奮が入り混じってドキドキしている。そのドキドキが溢れて私の体中をかけ巡ったとき、私はいつも呟くのだ。

「あー、おもしろかった！」

NEC賞

絵を書く楽しさ

●箱崎小学校　4年

小野（オノ）　楓花（フウカ）

私にとって、絵を書くことは、生活の一部です。

なぜ、絵を好きになったかと言うと、祖母の絵を見て、「とてもじょうずだな」と思い、自分も書きたくなったからです。そして、見よう見まねでスケッチブックに色んな絵を書き始めました。

たとえば、自分の部屋の中の様子に、母や父のにがお絵や外の景色を、たくさん書きました。その中の絵で、母が気にいった作品を、かべにはってくれました。それで、うれしくなって、またどんどん絵を書きました。

そのうち、絵で表賞される事が多くなり、ますます自信が出てきました。

それからは、いつもいつも、スケッチブックや、紙に絵ばかり書いていました。すると、紙がたりない時は、絵を書きたい気もちが、ぼく発して、母に「紙買って～！スケッチブック買ってよ～！絵が書きたいんだよ～！」

と言い続ける事もありました。

そんな時は、ノートの切れはしや、プリントのうらになぐり書きをして、ストレスを発さんします。

今では、りっ体的な絵を書いたり、かげをつけてみたりするのが、楽しいです。そして、美じゅつ館や博物館に行き、絵のれきしや、それを書いた作者を学んでいます。とくに作者の中でも、レオナルド・ダビンチの絵が好きで、とてもすばらしい所は、人物のえがき方です。顔のひょうじょうや、目の書き方を勉強しています。

私もこれからたくさんの絵を書いて、みんなに見てもらえるような画家になりたいです。そのためにも、毎日絵を書いて、うでをみがいて行きます。もし、画家になれなくても、絵を書く事は、すきなので、しゅみとして一生書きつづけて行きます。

私の絵がこの世にいっぱいひろがって、みんなが幸せになれるように、ねがっています。そして、私の作品だけで、てん示会が開さいできるように、がんばります。

永遠の友達

●赤坂小学校６年

原田（ハラダ）　みつき

その友達との初めての出会いは、幼稚園のバス停だった。その子は気が強いのによく泣いていた。そういう私も泣いていたらしい。その子と仲良くなったきっかけは、給食のクリームシチューがおたがいにきらいだった事から、なぜか仲良くなっていった。そのころの流行だったシール交かんは、その友人とかなりはまったのを覚えている。でも「ケンカするほど仲が良い」と言うのに遊ぶ時はいつも最初は仲が良いけど、最後はおたがいなぐり合いをする程の大ゲンカをしていた。でも、次の日にはなぜか何事もなかったかのように仲直りもせず、仲良くなっていった。

そんなある日、私が引っこす事になった。その友人ともはなれる事がさびしかった。でもその三カ月後ぐらいにその友人は、私の家の近くに引っこしてくるというミラクルがおこった。そんなミラクルはまだおさまらなかった。なんと、小学校も同じだったのだ。でも小学校のクラスはいつもはなれていた。今考えてみると、仲良しすぎて私達の関係が見ぬかれていたからだと思う。

しゅ味は全然ちがうけど放課後遊ぶのはその子だった。それぞれ他の友達ができたこともあったけれど一番気が合うのは、その子という気がしていた。友達歴９年すごく長かったようで実はすごく短かった。これから中学、高校、大学とそれぞれ違う道に進むかもしれないけど、ミラクルはまだまだ続くことを願う。これから大人になっていく私達、色々な事を友達と語り合いながら過ごす未来が楽しみだ。

私が大好きなこと

●長丘中学校１年

佐藤（サトウ）　令奈（レナ）

私が大好きなことは、お母さんといっしょに料理をすることです。

なぜ私が、お母さんといっしょに料理をすることを選んだかというと、大好きなことを大好きな人といっしょにしている方がいいからです。料理を選んだ理由は、私が一番大好きなことだからです。そして、お母さんも大好きなので、二つを合わせて、お母さんといっしょに料理をすることを選びました。

初めて、お母さんといっしょに料理をしたのは、５年生の夏休みでした。学校で夏休みの宿題が出された時に「学校給食コンテスト」と呼ばれる料理の宿題が出されたことをきっかけにお母さんと料理をしました。

あの時に思ったことは、いつも見ているお母さんとはちがう他の一面を見られたような感じがしました。いつも見ているお母さんは、優しく、私が悩んでいることを見抜くすごいお母さんですが、料理をしているときは真剣でテキパキと行動をするお母さんでした。

お母さんといっしょに料理をして一番きおくに残っているのは、お母さんがいつもよりこわかったことです。火事のことや料理の味などに注意をしていたら、どうしても顔がこわく見えてしまうのかなと思います。

この経験は、私に大切なことを教えてくれました。それは、人の一面で人を判断しないことです。もっと全面的に物事をとらえることを教えてくれました。

だから私はお母さんと料理をするのが好きなのです。

僕の厳しいおばあちゃん

●警固中学校1年

近本（チカモト）　悠城（ユウキ）

ぼくのおばあちゃんは厳しい。何が厳しいかというと、まず食べ物について。小さい頃から、好ききらいせずに、何でも食べるように教わりました。そのおかげで、好き嫌いせずに、学校の給食もたくさん食べられるようになりました。おばあちゃんは料理も上手で、僕が幼稚園のころには何度もきんぴらごぼうを作ってくれました。腸が強くなかった僕のために、ごぼうたくさんのきんぴらでした。おばあちゃんは、戦争体験者で福岡大空襲の時、7歳だったそうです。当時は、戦争中で食べたいものも食べられず、主な食べ物はイモとかぼちゃと大根だったそうで、苦労したんだなと思いました。そのような経験から感謝をしていただくことを教えたかったのだと思います。

二つ目は洋服のたたみ方です。ぬいだ服をたたまないで、そのままにしていると、「散らかるからたたみなさい。」と言われます。「はいはい」と生半可な返事だけしていると、さらに怒られます。しょうがないから、チャッチャッとたたむと、「やり直し、気持ちをこめてたたみなさい。」と言われます。どんなことでも手抜きせず一生懸命にやることが大事ということを教えられたようでした。

三つ目は、勉強と運動を両立させることです。ぼくは、小学校二年生のころからバスケットボールが好きで、バスケットボールスクールで一生懸命練習をしています。でも疲れていて、勉強もがんばろうと思いますが、あくびが出てしまい、集中できません。その結果、計算ミスをしていたり、漢字を書きまちがえていたりします。おばあちゃんは僕が集中していないところをすかさず見つけて、「きつくても集中しなさい」と注意します。そのはやさは、母よりもはやく、カンがするどいです。ぼくは、なぜおばあちゃんに見つかってしまうのか不思議でなりません。僕のことをよく気にしてくれているから、集中していないところが分かってしまうのかなと思います。何度も注意されて雷が落ちることもありますが。なぜ、ぼくばかりしかられるのかなと思ったことがあります。「両立させる」ことと、「集中する」ことは、勉強でも、バスケットボールでも同じように大事だということに気づきました。勉強のなかでも数学と国語、理科、社会、英語を両立させること。バスケットでもオフェンスとディフェンスを両立させること。そして、試験でも練習でも試合でも集中して取り組むこと。このことを一生懸命僕に伝えたいのだと思いました。何度も何度も言ってくれるのは、僕のことを思ってくれるからだと思います。ときには、口応えすることもあるけれど、いつまでも元気で厳しいおばあちゃんでいてください。

たくさんの子供と関わってきた今の自分

●長丘中学校2年

安松（ヤスマツ）　香南（カナミ）

私の好きなことは、小さい子どものお世話することです。だから、保育士という夢もできました。

子供をお世話することが好きになったきっかけを話したいと思います。私が小学校の時に幼稚園内の預かりに行ってたくさんの園児のお世話をしました。最年少の子供をよくお世話していました。外で一緒に遊んだり、お昼寝の時に寝かせてあげたりします。寝かせるのはとても大変で、なかなか眠らない子がいます。でも寝た時の顔がかわいくてやりがいを感じていたので遊び時間をけずってすることもありました。遊ぶときは追いかけるとキャーッと言ってニコニコしながら逃げていくのがとてもかわいかったです。座ってると上に乗ってくる子もいました。

子どもをたくさんお世話してきてそれが保育士という夢に変わった理由にあります。それは幼稚園の先生のなかで一人だけあこがれる先生がいたからです。その先生はいつでも笑顔で何でも話せていつも元気づけてくれる先生です。幼稚園に行くのを嫌がっていた私を鞄箱まで迎えにきてくれて優しかったです。わたしも、こんないい人になりたいと思いました。

もう一つ理由があります。私が6年生のとき、双子の赤ちゃんのいとこができました。双子で大変だと聞いていたので、夏休みは毎日のようにお世話に行っていました。

赤ちゃんなので常に危険となりあわせで、少しも気を抜くことができません。ミルクは、冷めても熱すぎてもいけません。飲ませてあげるときも、首が座っていないのでしっかり支えて体を起こしてあげないといけません。寝起きだと泣くことが多いので抱っこをしています。その時も気を付けていることが多くて大変です。でも、大変なことだけどいい経験をさせてもらったなと思います。

今まで、赤ちゃんから幼稚園児、そして小学生の子まで幅広い範囲でお世話してきました。その中で成長していく自分がいたと思います。その成長をさせてあげられる元気でやさしい保育士になりたいです。そして、お世話した子の成長を見届けたいです。

NPO博多の風賞

大すきな山かさ「たのしいぞ」

●百道浜小学校2年

生方（イクカタ） 純（ジュン）

ぼくは、山かさが大すきです。そのわけは、「オイサ、オイサ」とかけ声を出して、走ってたのしいからです。きつくはなりません。水がふってくるからです。それはきもちよくてたまりません。

おい山は、朝早く起きないといけません。おきたのは、2時ぐらいでした。そして、行ったのが3時ぐらいでした。ねむかったです。でもたのしかったです。

あとは、なおらいです。ぼくが走っている間にごはんをつくってくれて、つなしき天まんぐうで食べました。毎日おいしくて、たのしくてたまりませんでした。そして食べおわったら、おかしやおもちゃをもらいました。うれしかったです。

ぼくはこういうことで山かさが大すきになりました。

十分の風

●博多小学校5年

藤田（フジタ） 悠真（ユウマ）

「乗る、けった、こぐ」

くさりに手をかけ、むねをはり、足を前後する。

風に押されるぼくのからだ。

ぼくを包みこむような今日の風。

何も考えずに乗れる

ぼくの大好きなブランコ。

ぼくには毎日時間がない。

学校、塾、宿題をくり返す毎日。

ぼくはいつ遊べるかをいつもいつも考えている。

勉強ばかりじゃ大声でさけびたくなる。

そんな時はお母さんが休けいをくれる。

「お母さん、十分だけブランコ乗ってきていい？」て言うのがぼくの定番。

「いいよ、気をつけてね。けい帯を持って行きなさい。」とお母さんの声。

その声と同時にけい帯をガサっと取ってブランコのことだけを考えて走っていく。

何もかも忘れたい気持ちで走っていく。

ブランコに乗るとスカッとする。十分だけの風を思い浮かべながら走っていく。

その風は、きっと、ぼくにはやさしい風となるだろう。

十分だけのブランコ。

ぼくの大好きなブランコ。

本と新たな発見、考え方

●平尾中学校2年

坂（サカ） 多南実（タナミ）

私は本を読むのが好きです。読書が好きな人は多いと思いますが、私は特にこのジャンルの本が好き、というものはなくいろいろな本を読みます。

私がいろいろな種類の本が好きな理由は、三つあります。

一つ目は、本を通して著者の考え方を学ぶことができるからです。その人が書いた本をたくさん読めば、伝えたいテーマやメッセージを知ることができます。他にも、同じ本を二回、三回と繰り返し読むことで、一回目では気づかなかった著者の考え方、意図も発見できるでしょう。

二つ目は、どんなに年月が過ぎても、著者の体験したことや感じたことを知ることができるからです。本はそれこそ何百年前のことであろうと、読めば知ることができます。例えば、暮らしに注目することで生活の様子が分かりますし、著者や周りの人達の言動や行動でその時代の考え方も推測できます。

三つ目は、本の中の人物と自分を重ね合わせることができるからです。たくさんの本を読むと自然に「このとき自分はどうするだろう。」と考えるようになります。自分と本の中の人物を重ね合わせることで、著者の伝えたいことを見つけ出せるかもしれません。

今まで挙げたこと以外にも本の魅力はたくさんあります。それぞれの本にそれぞれの良いところが本の数だけあります。本をあまり読めない人は一冊だけでも手にとって良いところを探してみて下さい。今まで本を読んできた人も、読んだことのないジャンルの本を読んでみて下さい。きっと新たな発見とさまざまな考え方を知ることができるでしょう。

私の大好きなもの

●長丘中学校2年

小島（コジマ） 凛香（リンカ）

私の大好きなもの。それは私の「家族」です。

私の家族はとても楽しい家族です。毎日外で力仕事をしている父、看護師として働いている母、私、小学五年生の妹の五人家族です。

父は毎日外で力仕事をしていて、疲れているにも関わらず週末によく遊びにいろいろなところへ連れて行ってくれたり、私が勉強で分からないところを教えてくれたり、とても頼もしいです。また、父は釣りが好きで、よく釣りに行っています。私もときどき一緒に連れて行ってもらいます。父と一緒に釣りをしている時間が私は結構好きです。

母は看護師という大変な仕事をしながら家の家事もすべてこなすとてもすごい人で、私にとってあこがれの存在であり、尊敬している人でもあります。私がいろいろなことで悩んでいるときに心配してくれたり、アドバイスをくれたりするとてもやさしい母です。

でもそんな母に対して反抗的になってしまうことがあって、そんな時に母を傷つけてしまっていないか不安になります。これからは、母が私にいろいろ言ってくれているのは私のためなんだと思って、できるだけ反抗的な態度をとらないようにしたいです。それと、忙しい母の負担を減らせるように自分ができる家事はやるようにします。

弟はよく放課後に外に遊びに行くような元気な男の子で妹はかわいいものが大好きな女の子です。弟と妹はよくけんかしたりしてしまうけど、すぐに仲直りができるから良いかなと思います。弟も妹もいなかったらは私は今、とても寂しかったと思うので、弟と妹を生んでくれた母にとても感謝します。

この五人から誰か一人でもいなくなってしまったら、私の毎日はとても悲しく暗いものになります。だから毎日家族を大切にして、毎日を楽しく過ごせるようにしたいです。

始まりは天の川

●長丘中学校2年

佐々木（ササキ） 理帆（リホ）

私の「大好き」を見つけてくれたのは祖父母の家で星空を眺めていたのが始まりだ。祖父母の家は田舎の方だが、昔と比べるとかなり家が建ってきたそうだ。でも、星はとてもよく見える。夏に見える天の川がすごい。

私の「大好き」が始まったのは、六年生の夏お盆の日。祖父母の家で星空を眺めていたのが始まりだ。祖父母の家は田舎の方だが、昔と比べるとかなり家が建ってきたそうだ。でも、星はとてもよく見える。夏に見える天の川がすごい。

私の「大好き」を見つけてくれたのは祖父母の家で眺めていた天の川だ。私の家ではなかなか見えない天の川に感動した。それまで全く興味のなかったら私は今、とても寂しかったと思うので、弟と妹を生んでくれた母にとても感謝します。

この五人から誰か一人でもいなくなってしまったら、私の毎日はとても悲しく暗いものになります。だから毎日家族を大切にして、毎日を楽しく過ごせるようにしたいです。

始まりは天の川

●長丘中学校2年

佐々木（ササキ） 理帆（リホ）

私の「大好き」が始まったのは、六年生の夏お盆の日。祖父母の家で星空を眺めていたのが始まりだ。祖父母の家は田舎の方だが、昔と比べるとかなり家が建ってきたそうだ。でも、星はとてもよく見える。夏に見える天の川がすごい。

私の「大好き」を見つけてくれたのは祖父母の家で眺めていた天の川だ。私の家ではなかなか見えない天の川に感動した。それまで全く興味のなかった空や星に少しだけ関心を持つようになった。それからは、晴れた日の夜に星を少し眺めたり、インターネットで星座などを調べるようになった。それがとても楽しく、なぜか心もほっとする。この頃から、私の「大好き」は星を見つけること、眺めること、調べることになった。流星群や月食などが夜中にあっても見に行くほど好きになっていた。

最近は星空を眺めることに続き、宇宙にも関心を持つようになった。宇宙の始まりや、広さなど考えれば考えるほど興味深い。周りの人は非現実的な人だと思っているが、宇宙人の存在も気になるし、いると思う。宇宙が知りたくて、物理学、量子力学を難しいけど勉強している。宇宙も私の「大好き」だ。将来は、宇宙の職に就きたいなと思っている。

今の私の「大好き」があるのは、天の川が始まりだと思っている。これからはたくさんのことをして、他にも「大好き」を見つけていきたい。